

法リタル出港税前納目錄貳通ヲ差出シ船政所ニ於テハ前納目錄ノ高ニ從ヒ定則ノ税金ヲ領收シ同號乙ノ書式ニ法リ奥書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ直艱差許スヘシ

但本條許可ヲ得テ其地ニ到リ産物積取ノ節ハ其地方役所ニ申立検査ヲ受クヘシ役所ニ於テハ出港税前納濟ノ目錄ニ照較シテ之ヲ検査シ若シ産物不足ノ節ハ其由ヲ詳記セル書面ヲ右目錄ニ添ヘテ船長ヘ下附シ船長之ヲ翌年七月迄ニ曩キニ納税ノ船政所ヘ差出スニ於テハ過納ノ金額下戻スヘシ

第八條 出港税納濟ノ諸産物都合ニ依リ第二條ニ掲クル各港ノ内ヘ揚陸スルキハ該港船政所ヘ願出ヘシ政所ニ於テハ現品審査ノ上税納濟ノ目錄ヲ引上ケ税金下戻スヘシ

但出港税ヲ收納シタル港内ニ於テ難破ノ災ニ罹リ税納濟ノ産物流没シタル分ハ實際検査ノ上税金下戻スヘシ

第九條 各港船政所及役所ハ休日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後

四時迄船舶出入ノ事務取扱フヘシ尤諸貨物船積船卸ハ日出ヨリ日没迄ヲ限リトス

但臨時出入港ノ手數ヲ請ヒ或ハ時限外ニ貨物ヲ積卸セント欲スル者ハ其事由ヲ具シ船政所或ハ役所ヘ願出ヘシ

第十條 諸船舶出港税未納或ハ税納目錄外ノ産物ヲ竊ニ積載各府縣ヘ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシテ船長ヨリ其物品原價其發露スル地方賣買ノ價格ヲ以テコレヲ定ム十分ノ二及出港税ヲ徴收スヘシ

第十一條 各港船政所及役所ニ於テハ毎船ノ出入ヲ審査シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリテ其踪跡詳ナラサルトキハ「開拓使」ヨリ直ニ其船主ノ本管廳ヘ通報シ本管廳ニ於テハ出港税及科料ヲ徴收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ「同使函館支廳」ヘ送付スヘシ

但北海道回漕中暴風等ノ難ニ罹リ止ヲ得スシテ直ニ府縣下ヘ入船スルモノハ本條ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添ヘ

十四年第七十二號布告別例總務方發付以下條之第十四類ニ載ス

速ニ其地方廳へ届出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取糺ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港税原價ハ其入船シタル地方賣買ノテ價格ヨリ其運賃ヲ除キ之ヲ定ムヲ徵收シテ本文同様送付スヘシ

第十二條 出入港ノ届及檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモク或ハ許可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ算則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徵收スヘシ

日本形船 五拾石マテ 金拾五錢

五拾壹石以上拾石ユトニ壹錢ヲ加フ

外國形漁船 三拾噸マテ 金五拾錢

三拾壹噸以上拾噸ユトニ拾七錢ヲ加フ

同風帆船 三拾噸マテ 金三拾錢

三拾壹噸以上拾噸ユトニ拾錢ヲ加フ

第十三條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ賞トシテ與フヘシ

(書式略之)

○ 根室縣拾昆布并函館縣帆立身稅徵收明治十七年二月第四號布告

根室縣下千島國及北見國紋別常呂網走斜里ノ四郡ニ於テハ拾昆布稅收獲高ノ現品一割ヲ徵收シ函館縣下渡島國松前郡ニ於テハ帆立身稅收獲高ノ現品一割ヲ徵收ス但本年五月一日ヨリ施行ス

○ 露領樺太島貿易輸出入物品稅免除明治九年十二月第四百十九號布告

露西亞國領樺太島貿易ノ儀當分ノ内内國產物内地運送同様諸船舶出入港手數料及輸出入物品稅免除候條明治八年十一月第一百六十三號及本

八年第百六十三號及九
年第二十九號布告西洋形
日本船各開港場出入規則
ハ第二類ニ載ス

年三第貳拾九號布告ノ通船舶出入港及物品輸出入共其都度開港場稅
關へ可届出此旨布告候事

但樺太島へ渡航スル船舶ハ必ス内地開港場ヨリ出船シ歸着スルモ
同様可心得事

○ 國稅地方稅ノ區別 明治八年九月
第百四十號布告

從來ノ租稅賦金ヲ國稅府稅ノ二款ニ分テ左ノ通處分候條此旨布告候
事

國稅

全國一般へ賦課スヘキ分ニシテ大藏省ニ收入シ國費ニ供スルモ

ノヲ云

〔府
縣稅

十一年第拾九號布告ヲ以
テ從前ノ府縣稅ヲ地方稅
ト改メ十三年第拾六號布
告ニ地方稅規則參拾五類
ニ載ス

現今賦金ト稱シ收入スル諸稅及本年二月二十三號布告地方收稅
ノ類ニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノヲ云
但賦課ノ方法ハ地方官ニ於テ取調大藏省ノ許可ヲ得費途ノ方
法ハ内務省ノ許可ヲ得テ施行スヘキモノトス(八年第百四拾九
號布告ヲ以テ但
正書收)

○ 租稅未納者處分方 明治十年十一月
第七十九號布告

沿革略記 明治五年九月第二百八十五號布告ヲ以テ租稅延納者
處分方ヲ定ム○九年一月第四號布告ヲ以テ前令ヲ改
正ス○十年十一月第七十九號布告ヲ以テ前令ヲ廢止シ租稅
未納者處分方ヲ定ム是レ現行法ナリ

租稅未納ノ者ハ從來怠納金ヲ徵シ本人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分
モ有之處自今右處分ヲ廢止シ更ニ左ノ通區別相立處分致スヘシ此旨

十三年第五十號布告備註
諸金怠納者處分并十七
年第十五號布告區町村費
及土木費怠納者處分參
第五類ニ載ス

十六年第三十一號布告徵收稅納者處分參看第十類ニ載ス

十七年第七號布告地租條例第十條參看本類ニ載ス

布告候事

第一條 徵收期限 每期ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財產ヲ公賣シテ徵收スヘシ若其財產他人へ賣與讓與シタル時ハ

之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムヘシ(十四年第十五號布告ヲ以テ割註ノ下後三十日ノ四

削字ル)

但書入質入地所質入ハ其ノ規則ニ從フノ財產ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辨

納スヘシト申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハス

第二條 營業稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ

酒類造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ酒造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得(十七年第六號布告ヲ以テ本項但書共改正)

但酒類并酒造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

第三條 「府縣稅民費」モ此規則ニ準シテ處分スヘシ

十一、十二年第九號布告ヲ以テ府縣稅及民費トス以下徵收メ

但各別ニ財產ヲ指定メテ賦課セサル「民費」徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財產ニ付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財產ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅「府縣稅民費」ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時國稅「府縣稅」ハ官ノ損失ニ歸シ「民費」ハ該區ノ損失ニ歸ス

但該財產ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ給付ス

第五條 (十一年第三十四號布告ヲ以テ追加)
(十四年第十五號布告ヲ以テ刪除)

第六條 財產公賣ノ際買請望人無之節該財產ハ之ヲ官沒スヘシ(十一年第三十四號布告ヲ以テ追加)

附則

此布告ニ矛盾スル布告布達ハ廢止トス

租稅未納者處分方 課稅ニ關スル處分ニ就キ出訴期限

十七年第二十三號布告
町村及第五類ニ
方及十五年第七十四號布
告附屬諸金及土木費ニ
關シ出訴方參看第五類ニ
載ス
十六年第三十一號布告徵
發費用ニ關シ出訴方參看
第十三類ニ載ス

○ 課税ニ關スル處分ニ就キ出訴期限 明治十五年五月
課税ニ關スル處分ニ就キ不服アリテ出訴セントスル者ハ先ツ其旨ヲ
申立課額ヲ上納シ領收證書ヲ添ヘ其翌日ヨリ六十日內ニ訴出ツヘシ
但納税期限前ニ訴出テ訴訟中ト雖モ其期限ニ至レハ課額ヲ上納ス
ヘシ

○ 第五類

○ 郡區町村編制法 明治十一年七月
第十七號布告

沿革略記

明治四年四月郡町村ヲ區畫シテ大小區トナシ每區ニ
戶長並副戶長ヲ置ク○五年四月第十七號布告ヲ以
テ莊屋名主年寄等ノ稱ヲ廢シ戶長副戶長ト改稱ス○五年十
月大藏省第四百四十六號達ヲ以テ各地方土地ノ便宜ニ仍リ一
區ニ區長一人小區ニ副區長等ヲ置クヲ許ス○十一年七月第
十七號布告ヲ以テ郡區町村編制法ヲ制定ス是レ現行法ナリ

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル

第三條 郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡
トナス 東西南北上中下
某郡ト云カ如シ

第四條 三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者
ハ區分シテ數區トナス

第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クヲ得

第六條 每町村ニ戸長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クヲ得但區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼ヌルヲ得

第七條 此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得(十三年第十四號布告ヲ以テ追加)

第八條 地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スルコトヲ得(十三年第十四號布告ヲ以テ追加)

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(十三年第十四號布告ヲ以テ但書共追加)但町村區域名稱ノ變更ハ内務卿ノ認可ヲ受ク可シ

○

○府縣會規則明治十三年四月十五號布告

沿革略記 明治十一年七月第十八號布告ヲ以テ府縣會規則ヲ制定ス○十三年七月第十五號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ分ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス

若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由
ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得
再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ内務卿ノ指
揮ヲ請フコト前項ニ同シ(十四年第四號布告)
(ヲ以テ本項追加)

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ
出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ
異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務大藏兩卿ニ上申スルコ
トヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事縣令
若クハ其代理人之ヲ説明スヘシ(十五年第六十八號布告)
(ヲ以テ本項追加)

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害
ニ關スル事件ニ付建議ヲサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ
得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以

テ直チニ内務卿ニ建議シ又ハ府知事縣令ニ建議スルヲ得(十五年第
十號布告)
ヲ以テ本條改
正但書追加)

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得
第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會
議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ
施行スルコトヲ得

府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル
者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ
爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘ
シ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ
得(十四年第四號布告)
(ヲ以テ本項追加)

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰ブ
每郡區議員定數ノ外補闕員トシテ十人以下ヲ增撰スルヲ得(十五年
布告ヲ以テ)
木項追加)

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ
府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ
給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中
ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子
ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地
租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルコ
トヲ得ズ
トヲ得ズ

第一款 瘋癲白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ
滿期後五年ヲ經サル者(十五年第十號布告
ヲ以テ本項改正)

新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重
禁錮ノ刑ニ處セラレ主刑滿期後五年ヲ經サル者(十五年第十號
布告ヲ以テ本

項改正)
第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏「教導職」及陸海軍諸卒現役ノ者(十五年第十號布告
ヲ以テ本款改正)

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者
第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ
其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ
限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者及陸海軍軍人現
役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ズ(十五年第十號布告
ヲ以テ但書改正)

第十五條 議員ヲ撰舉セシトスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ撰

十七年第十號布告ヲ以
テ神佛敎職ヲ廢ス

學會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ撰舉ノ投票ヲ爲スヘキ日
ヲ定メ少ナクモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之
ヲ調査シ撰學會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ
撰學會ヲ開クコトヲ得

第十七條 選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ
被撰人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多
數ヲ得タル者ヲ以テ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ
圖ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ撰舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查
シ又被撰人名簿ニ就テ當撰人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適當ナ
ル者アルカ或ハ當撰人自ラ其撰ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ
得タル者ヲ取ル

第十九條 當撰人ノ當否ヲ査定スルノ后郡區長ハ其當撰人ヲ郡區廳
ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スヘシ

但當撰人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告
スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬ス
ヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一
回ニ年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰
スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府
縣外ニ轉籍スルカ其他總テ闕員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉

ス(十五年第十號布告ヲ以
テ轉住ヲ轉籍ト改ム)

但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル(十五年第十號布告)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可
否スル所ニ依ル
同數ナルトキハ議長ノ可

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ
辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長
ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ
付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之
ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去

セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知
事縣令ヨリ之ヲ命ス會期ハ三十日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地
方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ
改正シ十七年第二十八號
メ十八年十一月ヨリ施行ス)

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事縣令
ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事
由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ(十五年第六十八號
布告ヲ以テ改正)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコ
トアリト認ルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀
シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ
於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事縣令ハ更ニ其議定ヲ要セ

ス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十四年第四
テ本項追加十五年第六
十八號布告ヲ以テ改正)

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルト
キハ府知事縣令ハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(十四年
布告ヲ以テ
本項追加)

第一項ノ場合ニ於テ内務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更
ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事縣令ニ於テ地方税ノ經費豫算及徵
收方法ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第
布告ヲ以テ
本項追加)

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトア
リト認ムルトキハ内務卿ハ何レノ時ヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スル
コトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ
閉會云々ノ七字ヲ刪ル)
前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未ダ議定セサル議案アルトキハ後任議
員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ(十四年第四號布告
ヲ以テ本項追加)

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日
ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員(十二年第四十九號布
告ヲ以テ本章追加)

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任
スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ
以テ之ヲ補充スルヲ得(十五年第十號布告
ヲ以テ本項追加)

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ選任スヘ
シ(十五年第十號布告
ヲ以テ本項追加)

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法
順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ
述フ(十五年第六十八號布
告ヲ以テ本項改正)
常置委員ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル
場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告

スルヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シ

タル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取り會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス(十五年第十號布告ヲ以テ常置委員ノ下諮問ノ二字ヲ加フ)

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ(十五年第十號布告ヲ以テ改正)

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係

ル事件ニ付辯明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ二ケ年トシノ下議員云々ノ十三字ヲ加フ)

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ選任ス(十五年第十號布告ヲ以テ議長ヲ府知事縣令ト改ム)

第四十八條 常置委員ハ三十圓以上八十圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○府縣會ニテ議定スヘキ事件ノ細目ヲ區町村會等ノ議決ニ付スルヲ得(明治十四年二月第六號布告)

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若

クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○府縣會議員聯合集會等ヲ禁ス明治十五年十二月
第七拾號布告

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會
シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令
ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條
ニ依テ處分ス

十三年第十二號布告集會
條例第八類ニ載ス

○開會中議員建議書携帶上京等ヲ許サス十五年二月
第十一號達

府縣會規則第七條ニ依リ内務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中
議員自ラ其建議書ヲ携帶上京等ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相達
候事

但本文ノ趣府縣會ニ相達置クヘシ

○區郡部會規則明治十四年二月
第八號布告

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡部會規則左ノ通相定メ明治十三年
五月第二十六號及第二十七號布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經
テ此規則ヲ施行スルコトヲ得(十四年第二十號布
告ヲ以テ但書追加)

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トシ
シ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定ス
ヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ増加ヲ要スル
トキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニ
スルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其

日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條 (十五年第十二號) 布告ヲ以テ削除

第七條 (十五年第十二號) 布告ヲ以テ削除

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方稅ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋稅ト爲スコトヲ得(十五年第十二號布告)ヲ以テ追加

○區町村會法 明治十七年五月第十四號布告

沿革略記 明治十一年七月無號達第四項ヲ以テ地方ノ便宜ニ從テ町村會議又ハ區會議ノ開設ヲ許シ其會議ノ章程規則ハ內務卿ノ認可ヲ經シム○十三年四月第十八號布告ヲ以テ區町村會法ヲ制定ス○十七年五月第十四號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治十三年四月第拾八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ會期議員ノ員數任期改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム

第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戸長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戸長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會郡區長戸長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戸長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議

案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戸長ヲ以テ之ニ充ツ區長戸長若シ事故アルトキハ區長戸長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄內ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

○區町村費及土木費意納者處分明治十七年五月第十五號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ意納者ハ總テ明治十年十一月第七十九號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戸長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取り府

十年第七十九號布告租稅未納者處分方ハ第四類ニ載ス

十五年第二十二號布告課稅ニ關シ出訴方ハ第四類ニ載ス

知事縣令ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年四月第貳拾四號布告ハ廢止ス

○區町村費ニ關シ不服者出訴方明治十七年七月第貳拾三號布告

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

○戸長選任方十七年五月第四十一號達

戸長ハ府知事縣令之ヲ選任ス但町村人民ヲシテ三人乃至五人ヲ選舉セシメ府知事縣令其中ニ就テ選任スルコトヲ得ヘシ此旨相達候事

○町村人民戸長選舉方十七年五月內務省乙第二十五號達

本年第四十一號公達ニ仍リ町村人民ヲシテ戸長ヲ選舉セシムルトキハ其選舉方ハ區町村會議員選舉ノ例ニ照準ス可シ此旨相達候事

○戸長役場費ハ區町村費ヲ以テ支辨ス十七年五月內務省乙第廿四號達

本年第拾三號布告ヲ以テ地方稅規則第三條第十五項改正相成候ニ付テハ戸長役場諸費ハ總テ區町村費ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○ 地方稅規則 明治十三年四月 第六號布告

沿革略記

明治六年七月第二百七十二號布告ヲ以テ地租改正條
 例ヲ發シ其條中ヲ以テ郡村入費等地所ニ課スルモノ
 其地價ニ課シ其制限ヲ地租三分ノ一トナス○七年一月第七
 號布告ヲ以テ僕婢馬車人力車等ノ増稅劇場藝妓ノ諸稅等府
 縣限リ徵收スルモノ自今賦金ト稱セシム○八年二月第二十
 三號布告ヲ以テ舊慣雜稅ト稱スル區々ノ收稅ヲ廢シ營業上
 保護ヲ要スル者ハ更ニ地方官ニ於テ課稅セシム○同年九月
 第四百四十號布告ヲ以テ賦金ト稱シ又ハ前ノ第二十三號布告
 地方收稅ノ類ニシテ其地方ノ費用ニ供スルモノヲ廢シ更ニ
 府縣稅トシ處分セシム○十年第二號布告ヲ以テ六年第二百
 七十二號布告民費賦課ノ制限ヲ正租五分ノ一ト改ム○十一
 年七月第十九號布告ヲ以テ前キノ府縣稅民費ノ名ヲ以テ徵
 收セルモノヲ改メ地方稅トナシ其規則ヲ制定ス○十三年四
 月第十六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治十一年七月第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

- 一 地租三分一以内(十三年第四十八號布告ヲ以テ本項改正)
- 一 營業稅并雜種稅
- 一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム(十五年第
 三號布告
 ナ以テ及制限
 ノ三字ヲ刪ル)

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(十五年第二號布告
 ナ以テ各項共改正)

- 一 警察費
- 一 警察廳舍建築修繕費
- 一 土木費
- 一 區町村土木補助費
- 一 府縣會議諸費
- 一 衛生及病院費
- 一 教育費

- 一 區町村教育補助費
- 一 郡區廳舍建築修繕費
- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 救育費
- 一 浦役場及難破船諸費
- 一 諸達書及揭示諸費
- 一 勸業費
- 一 戶長以下給料旅費(十七年第十三號布告ヲ以テ本項改正)
- 一 地方稅取扱費府縣廳ニ屬スル爲替方給料爲替手數料現金遞送等ノ費用
- 一 府縣廳舍建築修繕費
- 一 府縣監獄費
- 一 府縣監獄建築修繕費
- 一 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サズ
- 一 豫備費豫算外ニ生シタル事件ノ費途(十五年第六十九號布告)及豫算ノ臨時不足ニ充ル者(十五年第六十九號布告)ヲ以テ本項改正

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十七年第二十九號布告ヲ以テ改正十八年七月ヨリ翌年三月迄九箇月ヲ以テ一周年度トス)

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取り府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六十九號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取り內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十四年第五號布告ヲ以テ報告スヘシ)ノ下其急施云々ノ五十四字ヲ削ル

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取り其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(十五年第六十九號布告ヲ以テ本項追加)

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ(十四年第五號布告ヲ以テ改正)

第八條 (十四年第五號布告ヲ以テ刪除)

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルヲ得

第十條 (十三年第二十六號布告ヲ以テ追加十四年第八號布告ヲ以テ刪除)

○營業稅雜種稅規則明治十三年四月第拾七號布告

明治十一年月十二 第三拾九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス(十五年第三號布告ヲ以テ各項共改正)

商業

工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(十五年第三號布告ヲ以テ各項共改正)

料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類

湯屋

理髮人

傭人受宿

遊藝師匠遊藝藝人相撲俳優幫間藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場玉突大弓楊弓射的吹矢ノ類

人寄席

船解漁船川船及五車八車荷積中小車荷積牛車ノ類

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスル者ハ府縣

會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政

府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條 (十五年第三號布 告ヲ以テ刪除)

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中

ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府縣會

ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ(十五年第三號布 告ヲ以テ下稅額

云々ノ八 字ヲ刪除)

第六條 (十五年第三號布 告ヲ以テ刪除)

第七條 (十五年第三號布 告ヲ以テ刪除)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令

ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモ

ノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀

シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(十五年第三號布 告ヲ以テ第三條稅目

○府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ割合明治十四年二月 第十拾六號布 告

府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合來ル十四年度ヨリ左

之通相定候條此旨布告候事

第一條 東京府ハ警察費總高ノ十分ノ六トス

第二條 京都府大坂府并各縣沖繩縣ハ除外ハ地方稅支出高ノ十分ノ三

トス

第三條 前二ヶ條割合ノ外警察官吏巡查ヲ除ク并ニ之ニ準ス

ヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前之通國庫ヨリ支給ス

○集治監ニ入ルヘキ囚徒并其費用區分明治十四年三月第十七號布告

集治監ニ入ルヘキ囚徒并ニ其費用ノ區分當分ノ内左之通相定メ

本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期

五年以上ノ者トス其費用府縣獄ニ拘留中ノ費用並ニハ國庫ヨリ支給スヘシ

リ支給スヘシ

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ

其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○警察廳舎建築修繕費國庫下渡金算出方十五年一月八號達

本年第貳號布告第三條第貳項警察廳舎建築修繕費ハ警察費ヨリ

分裂セシ科目ニ付客年第拾六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出ス

ル場合ニ於テハ警察費ヘ併算候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○警察署分署建築修繕費國庫地方稅連帶支辨十三年四月九號達

官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年一月第拾六號ヲ以相達

置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方

稅ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○傳染病ニ罹ル赤貧者ノ費用衛生費ヨリ支辨十六年二月八號達

明治十四年四月第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行

ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ據リ官費支給スルコトアルヘシ

○地方稅ニ係ル事業ニ對シ寄附金等ハ寄附者ノ指定ニ任ス十五年

二月 內務大藏兩省乙第七十五號達

地方稅ヲ以施行スヘキ事業ニ對シ寄付スル金穀物件ハ地方稅豫

算ニ編入セス直ニ寄付者指定ノ費途ニ仕拂及使用ス可シ此旨相

達候事

但從前ノ令達訓示本文ニ抵觸スルモノハ消滅ス

○地方稅不納者公賣ノ末不足額及地方稅年度未殘額處分十一年

內務省乙第七十九號

本年第九號公布中左之條々處分方心得ノ爲メ相達候事
一 地方稅ヲ不納スルモノ十年第七十九號公布ニ據リ財產公賣徵收スルモ猶不足スルキハ其欠額ハ管内一般ノ損失トシ賦課ス

ハシ
一 地方稅年度尾ニ至リ其一年度間ノ出納實費ニ就キ殘額アル時ハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ(十三年內務省乙第四十四號達ヲ以テ繰越スヘシノ下三十四號達ヲ以テ)

○ 官用ノ船舶車馬ハ地方稅ヲ課セス(十五年內務省乙第五十七號達)

官用ノ船舶車馬ハ明治十六年度以後地方稅ヲ賦課スルヲ得サル儀ト可心得此旨相達候事

但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○ 皇族所有ノ車馬ハ地方稅ヲ課セス(十六年六月內務省乙第三十號達)

皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以後地方稅賦課不相成候條此旨相達候事

○ 乘馬飼養令ニ依ル馬ハ地方稅ヲ課セス(十七年十月內務省乙第八十三號達)

本年八月第六十六號達ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方稅ヲ賦課スルノ限リニ在ラサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○ 警察費ニ對シ國庫下渡金割合計算方(十四年四月內務省乙第八號達)

本年第十六號布告第二條地方稅支出高十分ノ三トアルハ警察費總高ノ內第三條ノ費用ヲ除キ餘ル金員ノ十三分ノ三ト心得ヘシ此旨相達候事

○ 警察官吏等諸給與國庫支辨ニ係ル費項心得方(十四年三月內務省乙第六號布告第三條)警察官吏并之ニ準スヘキ備内外人ノ諸給與ハ從前之通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方稅ト連帶支辨ニ係ル費項ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○ 警察官吏等諸給與國庫支辨ニ係ル費項心得方(十四年三月內務省乙第六號布告第三條)警察官吏并之ニ準スヘキ備内外人ノ諸給與ハ從前之通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方稅ト連帶支辨ニ係ル費項ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○ 備荒儲蓄法 明治三十三年六月第三十一號布告

沿革略記

明治元年六月人民ノ兵燹洪水ニ罹ル者ノ救助方法ヲ示シ其事務ヲ府縣ニ擔任セシム○二年府縣施政順序

ヲ定メ凶荒豫防窮民救助ノ方法ヲ示ス○同年七月府縣奉職規則ヲ定メ凶年飢歲ノ慮ヲナシ豫メ民患賑濟ノ備ヲ設ケシ

ム○同年十二月水火災ニ罹リシ者救助日數及給與米額ヲ定ム○三年二月民政部ヨリ夫食種粉類燒農具代等貸下方ヲ達ス

ス○同年五月民政部ヨリ火災ニ罹ル者救恤處分方ヲ達ス○

同年六月民政部達ヲ以テ貯蓄ノ穀物窮民貸與日數及男女一日ノ給與額ヲ定メ年賦返辨方ヲ届出サシム○四年六月夫食

種粉其他正米貸下ヲ止メ石代渡トス○同年十一月縣治條例

ヲ頒布シ窮民一時救助規則ヲ定ム〇五年五月窮民一時救助規則ヲ改正ス〇七年十二月第百六十二號達ヲ以テ恤救規則ヲ定ム〇八年四月第四十九號達ヲ以テ惡病流行ノ節貧民救助概則ヲ定ム〇同年七月內務省乙第八十五號達ヲ以テ七年第百六十二號達窮民恤救規則ノ申請調査手續ヲ定ム〇同年七月第百二十二號達ヲ以テ縣治條例中窮民一時救助規則ヲ廢シ更ニ窮民一時救助規則ヲ定ム〇十年九月第六十二號布告ヲ以テ凶歲租稅延納規則ヲ制定ス〇十三年六月第三十一號布告ヲ以テ前キニ定ムル所ノ救助延納ノ二規則ヲ廢止シ更ニ備荒儲蓄法ヲ制定ス是レ現行法ナリ

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル十三年度明治十四年一月一日ヨリ施行候條明治八年七月第百廿二號達窮民一時救助規則及同十年九月第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

(別紙)

備荒儲蓄法

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租國稅ノ部ナリ納ムル

能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス

第二條 各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少カラサルヲ要ス

但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得

第三條 政府ハ每歲百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條 政府ヨリ補助スル金額ノ内三拾萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應シテ之ヲ配付スヘシ

第五條 府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ數所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取り內務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施

行スヘシ但米穀ヲ儲積スルハ儲蓄金ノ半額ヲ超ユヘカラス他ノ半額ハ公債證書ニ交換シ置クヘキ者トス

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ三十日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス
第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分二以上ヲ供用支出スルキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ
第八條 従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條 府知事縣令ハ毎年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ内務大藏兩卿ニ報告シ兩卿ハ毎年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條 此方法ハ二十年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存方法ヲ定ムヘシ

○備荒儲蓄金怠納者處分明治十三年十一月第五十號布告

本年六月第二十一號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ怠納スル者ハ十月十一日第七十九號布告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ルモノハ免除スヘシ此旨布告候事
○備荒儲蓄金及土木費ニ關シ出訴方明治十五年十二月第七拾四號布告

十年第七十九號布告租稅未納者處分方ハ第四類ニ載ス

四百十六
備荒儲蓄金及區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル
土木費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年
五月第二十二號布告ニ依ルヘシ

○第六類

○貨幣條例
明治八年六月
第八號布告

沿革略記
明治元年二月洋銀一枚ヲ以テ金三分ニ充テ通用セシ
ム○同年同月古金銀時價ヲ以テ通用スルヲ許ス○同
年三月自今銅錢一文ヲ以テ鑿錢六文ニ通用セシム○同年閏
四月新古金銀并銅錢價位及ヒ外國貨幣ノ價位ヲ定ム○同年
五月丁銀豆板銀ノ通用ヲ停止ス○同年十月古金銀引換額ヲ
定ム○二年二月新貨幣鑄造ヲ造幣局ニ命セラル○同年七月
錢相場ハ金壹兩ニ付十貫文ト定ム○同年十月北海道開拓融
通ノ爲メ在來ノ當百錢ヲ増鑄ス○同年同月銀壹圓貳分金ハ
特旨ヲ以テ金札ニ引換ヲ許シ其價格ヲ定ム○三年七月錢當
分時相場ヲ以テ通用スルヲ許ス○四年五月達ヲ以テ三陸錢
ハ時相場ヲ以テ通用セシメ尋テ十二月大藏省達ヲ以テ租稅
其外公納ヲ停止ス○七年三月第三十四號布告ヲ以テ貿易壹圓
銀ノ模様ヲ改正ス○八年二月第三十五號布告ヲ以テ壹圓銀
ノ量目ヲ増シ貿易銀ト唱へ表裏ノ模様等ヲ改正ス○十一年
十二月ニ至リ第三十五號布告ヲ以テ前令ノ鑄造ヲ停止セ七
年第三十四號布告ノ貿易壹圓銀ヲ再鑄發行ス○同年六月第百
八號布告ヲ以テ新貨幣條例ヲ改正シ貨幣條例ト稱ス是レ現行

法ナリ

新貨條例ノ儀明治四年^五頒布ノ後追々貨幣圖面寸法ノ改正規則目
ノ刪補等有之候ニ付本年^四第六十二號布告但書ノ通今般改刻更ニ貨
幣條例ト相改候條此旨布告候事

但明治六年^八第三百八號布告銅貨圖面同七年^三第三十四號布告壹
圓銀圖面本年^二第三十五號布告貿易銀圖面共表裏ノ唱へ反對致シ
居候ニ付今般改正候事

皇國往古ヨリ他邦貿易ノ事少ク貨幣之制度イマダ精密ナラス其品
類各種ニシテ其價位モ亦一定セス今其概略ヲ舉ムニハ慶長金アリ享
保金アリ文字金アリ大小判金アリ一分金アリ二分金アリ貳朱金アリ
一分銀アリ一朱銀アリ當百錢アリ大小數種ノ銅錢アリ其他一時通用
ノ貨幣ハ枚舉ニ違アラヌ甚シキハ一國一郡限ノ貨幣アリテ今ニ至ル
マテ僅ニ其一部ニ通用シ他方ニ流通セサルモノアリカク其品類區々
ニシテ方圓大小其價ヲ異ニシ混合雜駁其質ヲ同ウセス抑貨幣ノ眼目

タル量目ト性合トニ至リテハ殆ント辨知スヘカラス新舊互ニ雜用シ
品位自ラ低下シ其間或ハ贋造ノ弊アリテ竟ニ今日ノ甚シキニ馴致セ
リ偶々良性ノ貨幣ハ徒ラニ富家庫中ノ寶物トナリ或ハ外國へ輸出セ
シモ亦少ナカラズ遂ニ諸品換用ノ能力ヲ失ヒ日用便利ノ道ヲ塞キ流
通ノ公益殆ント絶ヘントスルニ至ル實ニコレ天下一般ノ窮厄ニシテ
萬民ノ痛心更ニ之ヨリ大ナルモノナシ今其緣由ヲ尋繹スルニ全ク一
定ノ價位ナクシテ善惡良否ヲ雜用スルノ舊弊ヨリ生スル事ナリ方今
貿易ノ道彌盛ムナル時ニ當リテ舊弊ヲ改メ精良ノ新製ヲ設ケスンハ
何ヲモツテ流通ノ道ヲ開キ富國ノ基ヲ立ンヤ是政府ノ責任ニシテ然
モ燃眉ノ急務タリ故ニ去ル明治元戊辰ノ年ヨリ早クソノ功ヲ起シ莫
大ノ經費ヲ厭ハス大坂ニテ新ニ造幣寮ヲ建置シ壯大ナル器械ヲ
備へ廣ク宇内各國貨幣ノ眞理ヲ察知シ金銀ノ性質量目ヨリ割合ノ差
等鑄造ノ方法ニ至ルマテ詳カニ普通ノ制ヲ比較商量シ以テ精密ノ通
用貨幣ヲ鑄造シ在來ノ貨幣ニ加ヘテ一般ノ流通ヲ資ケントスルノ都

合ヲ謀リ既ニ開寮ノ儀典ヲ完了セリサレトモ前ニ言ヘルコトク區々各種ノ貨幣多ケレハ現場諸品ノ價直ヲ錯亂シ萬民ノ迷惑ナルヲナレハ漸々新舊ヲ交換シテ在來ノ通寶ハ悉ク改鑄シ都テ品類ヲ一定セシメントノ御趣意ナリ且貨幣ハ天下萬民ノ通寶タル主旨ニ基キ地金ヲ持參シテ引換ヲ望ムモノヘハ速カニ改鑄シテ通用貨幣ヲ渡スヘシガレハ今人々古來ノ舊習ヲ襲ヒ重代ノ寶物トセル古金銀ノ類モ數年ナラスシテ全ク地金一様ノモノトナルヘケレハ早々交換流通シテ貨幣ノ眞理ヲ失ハサル様注意スヘキ事肝要ナリ斯ク新タニ造幣寮ヲ設ケシモ偏ニ萬民ノ保護ヲ任スルノ職分ヲ盡スノ外他アルニアラサレハ萬民亦能ク此理ヲ會得シ各ソノ務ヲ勉勵シテ天賦ノ職ヲツクスベシ仍テ今爰ニ其次第ヲ揭示シ并セテ新貨幣ノ眞形ヲ摹シ其量目品位表ヲ添ヘ且地金引換ヘノ規則等詳細ニ附録シ普ク國內ニ頒布諭告スルモノ也

明治四年辛未五月

太政官

貨幣條例目

- 一 貨幣ノ稱呼ハ圓ヲ以テ起票トシ其多寡ヲ論セス都テ圓ノ原稱ニ數字ヲ加ヘテ之ヲ計算スヘシ但シ一圓以下ハ錢一圓ノ十分一ト厘ノ十分一トヲ以テ少數ノ計算ニ用フヘシ
- 一 算則ハ都テ十進一位ノ法ヲ用ヒ一厘十ヲ合シテ一錢トシ一錢十ヲ併セテ十錢トイヒ十錢十即チ百錢ヲ以テ一圓トス一圓ヨリ上十百千萬ニ至ルトイフトモ皆十數ヲ合シテ一位ヲ進ム其他半錢五錢五十錢五圓ノ如キハ十數ヲ半割シ二十錢三圓三十圓ノ如キモ亦一十ノ數ヲ倍スルマテニシテ固ヨリ軌範ノ外ニ出ス
- 一 厘ヨリ以下ハ別ニ鑄造ノ貨幣ナシト雖若シ計算ヲ要スレハ毛絲忽微纖ヲ以テ微小ノ數ヲ算スヘシ又萬ヨリ以上ハ拾萬百萬千萬ニ至リ千萬十即チ萬々ヲ以テ一億トシ大數ノ計算ヲ爲スヘシ
- 一 製貨中金銀純分ノ割合及其量目ハ都テ眞形模寫ノ下ニ表出スルトイヘトモ鎔和鑄造ノ際僅少ノ差アルヲ免カレス故ニ今各種ノ

貨幣條例

貨幣ニ就テ其不得已シテ生スル量目并品位ノ公差ヲ表出シテ以テ毛絲ノ微細ヲ辨析ス

(品位公差表及貨幣略圖並品位量目表略之)

貨幣通用制限

本位金貨幣即二十圓十圓ノ中一圓金ヲ以テ原貨ト定メ各種トモ何レノ拂方ニモ之ヲ用ヒ其高ニ制限アルコトナシ

本位トハ貨幣ノ主本ニシテ他ノ準據トナルモノナリ故ニ通用ノ

際ニ制限ヲ立ルヲ要セス尤モ一圓金ヲ以テ本位中ノ原貨ト定ム

ルトハ就中一圓金ヲ以テ本位ノ基本ヲ定メ他ノ四種ノ金貨モ都

テ標準ヲ一圓金ニ取レハナリ

補助ノ銀貨即五十錢二十ハ都テ補助ノ貨品ニシテ其一種又ハ數種

ヲ併セ用フルトモ一口ノ拂方ニ十圓ノ高ヲ限ル可シ

補助ノ銅貨即二錢一錢ハ都テ一口ノ拂方ニ一圓ノ高ヲ限リ用ユヘシ

補助トハ本位貨幣ノ補助ニシテ制度ニヨリテ其價位ヲ定メテ融通ヲ資クルモノナリ故ニ通用ノ際ユレカ制限ヲ設ケテ交通ノ定規トス

貿易銀ハ各開港場貿易便利ノ爲メ内外人民ノ望ニ應ジ鑄造シ内外通商ノ流融ヲ資クヘシ

此貿易銀ハ海關稅其他外國人ヨリ納ムル諸稅及ヒ日本人外國人ト通商ノ取引ニ用ヒ又ユレテ内地ノ諸稅納方等其他公私一般ノ拂方

ニモ用ヒ其高ニ制限アルコトナシ(十一年第十三號布告ヲ以テ本節改正)

海關稅其他外國人ヨリ納ムル諸稅受取方ニ付貿易銀但新舊ト本位

金貨トノ價格比較ハ銀貨百枚ニ付本位金貨百圓ノ割合タルヘシ

(九年第二十七號布告ヲ以テ本節改正)

通用制限ハ元來貨幣ニ原本ト補助トノ別アル所以ノ理ニ基キテ制定セシモノナレハ人々取引ノ節右ノ制限ニ照準シモシコレニ越レハ誰ニテモ請取渡ヲ拒ムノ道理アルヘシサレトモ私ノ取引ニ付便

宜ノタシ對談ヲ以テ請取渡イタシ候儀ハ全ク相互ノ都合ニ從フ等
ナレハ右制限ニ不拘勝手次第ニ交通イタシ不苦候事

明治八年四月

大藏省

造幣規則(十六年第十拾八號)
布告ヲ以テ廢止

刑法第二編第四章第一節

○通用貨幣鑄解及毀傷スルヲ禁ス明治十一年一月
第二號布告

通用貨幣ヲ鑄解シ又ハ其體面ヲ毀傷スル等其他總テ流通ノ用ヲ

缺キ候所爲一切不相成候條此旨布告候事

○貿易銀一般通用ヲ許ス明治十一年五月
第十二號布告

貿易銀貨ノ儀ハ從來各開港場貿易便利ノ爲メ鑄造シ各開港場ニ

限り通用候處今般更ニ一般ニ令通用候條租稅其他公私ノ取引上

都テ授受可致此旨布告候事

○貿易壹圓銀洋銀ト並價通用明治十二年九月
第三十五號布告

一貿易壹圓銀(量目七匁二分七厘上毛性合銀九銅一)ノ儀今後稅

關ノ諸稅及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ拂方ヲナ
ス爲メ之ヲ差出スルハ諸官廳ニ於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受
領スヘシ

一本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ
履行スヘシト結約シタル所ノ金高ヲ拂フ爲メ右壹圓銀ヲ差出
スルハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

○舊貨幣價格比較表明治七年九月
第九十三號布告

明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ儀布告候處今般更ニ造幣寮
ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通改定シ來明治八年十二月迄新貨ト
交換候條所持ノモノハ各地方廳へ引換方可申出右期限中海關稅
ヲ除ノ外租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引
ハ自今令廢止候條此旨布告候事

(別冊舊金銀貨幣價格表略之)

○舊銅貨ノ品位ヲ定ム明治四年十二月
布告

舊銅貨之儀去ル辰年定價被仰出候處今般新貨御發行ニ付各種比較商量ノ上當分左ノ通品位被相定候條其旨相心得新貨幣并金札共取交聊無差支通用可致事

(新貨並金札之比較略之)

(舊銅貨品位圖面略之)

右ハ本位ノ新貨幣ト新銅貨トノ比例ニ依テ定ムルカ故ニ一種又ハ數種ヲ併セ用ユルトモ一口ノ取遣リ一圓ノ高ヲ限リ用ユヘシ但壹圓ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ尤相互ノ便宜ニ依テ取遣リスル時ハ右制限ニ不拘勝手タルヘシ

右之通相定候事

○舊鍍錢ノ價位ヲ定ム 明治五年九月
第二百八十三號布告

新貨幣御發行ニ付去辛未十二月中舊銅貨ノ定價被仰出候處猶今般舊鍍錢ノ價位當分左ノ通被相定候條其旨相心得新貨幣並金札共取交聊無差支可致通用事

(舊鍍錢價位圖面略之)

右ハ新貨幣トノ比較ニヨリテ之ヲ定ム尤モ鍍錢一種或ハ兩種ヲ併セ用フルモ一口ノ取遣リニ新貨五十錢ノ高ヲ限リ用フヘシ但新貨五十錢ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ然レトモ相互ノ便宜ニヨリテ取遣スル時ハ右制限ニ拘ハラズ勝手タルヘシ

右之通相定候事

○舊貨幣交換代金自今金銀貨ヲ以テス 十一年九月
大藏省乙第四十二號達
舊貨幣交換代金ノ儀自今金銀貨幣ノ内ヲ以テ可相渡尤モ古金ハ其價格拾圓ニ付金貨八圓貿易銀貳圓ヲ以テ下渡古銀ハ同ク貿易銀ヲ以テ可下渡候條古金銀交換申出候ハ、右ノ割合ヲ以テ交換方取計可申此旨相達候事

○舊貨幣新貨ト交換延期 十二年甲第十二月
三十三號布達
舊貨幣新貨ト交換并公納ノ儀明治十一年十二月當省甲第六拾七號布達ヲ以本年十二月迄延期候處尙詮議ノ次第有之退テ相達候迄令延期候條此旨布達候事

但交換代金ノ儀ハ昨明治十一年九月當省乙第四拾貳號達ノ通候事

○造幣規則 明治十六年五月十五號布達

沿革略記

明治二年二月造幣局ヲシテ新ニ金銀銅貨幣ヲ鑄造セシム○同年同月東京金銀座ヲ廢ス○四年五月布告ヲ以テ造幣規則ヲ制定ス○八年六月第百八號布告ヲ以テ前令ヲ改定ス○十一年七月大藏省甲第二十四號布達ヲ以テ精製分析所規則ヲ定ム○十二年十月大藏省甲第百一號布達ヲ以テ造幣地金受取方規則ヲ定ム○十六年五月第十八號布告ヲ以テ八年第百八號布告ノ造幣規則ヲ廢止ス○同年五月第十五號布達ヲ以テ鑄造大藏省布達スル所ノ甲第二十四號甲第百一號ノ規則ヲ廢シ造幣規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

造幣規則別冊ノ通相定本年八月十六日ヨリ施行シ明治十一年七月大藏省甲第貳拾四號同十二年十月同省甲第百壹號布達ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

但本年ハ本文甲第百壹號布達第二條日限中ト雖モ地金ヲ受取ル可シ

(別冊)

造幣規則

第一條 大坂造幣本局若クハ東京該出張所ニ輸入スル内外人民ノ金銀地金ハ左記ノ日ヲ除キ毎日之レヲ受取ル可シ但時限ハ本局ニ於テハ午前九時ヨリ午後一時迄出張所ニ於テハ同九時ヨリ正午十二時迄トス

毎日曜日

大祭日

臨時休暇

一月一日ヨリ
三月一日マテ

一月五日

九月一日ヨリ
十月三十一日マテ

十二月二十九日ヨリ
三十一日マテ

第二條 非常ノ事アリテ休業スルトキハ速ニ其旨ヲ布達シ地金受取方ヲ止ム可シ

第三條 輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサル可シ但出張所ニ於テハ輸入高工程ニ超過スルトキハ受取方ヲ拒ムコトア

ル可シ

金地金

三拾ナンス「トロイ」(凡八百四拾)

銀地金

二百ナンス「トロイ」(凡八百四拾)

不純粹金銀地金

舊金銀貨幣

價格貳百圓

金銀混合地金

第四條 品位詳明ナル外國金銀貨幣ハ其品位ニ據テ受取ル可シ若シ
試験鑄解ヲ要スルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ依リ之ヲ受取ル
可シ但出張所ニ於テハ其試験鑄解ヲ要スル者ノ外ハ之ヲ受取ラサ
ル可シ

第五條 品位詳明ナル金銀地金ハ照査試験ヲ爲シ其品位ニ據テ之ヲ
受取ル可シ若シ試験鑄解ヲ要スルトキハ輸入人ニ報知シ第六條ニ
依リ之ヲ受取ル可シ

第六條 品位詳明ナラサル金銀地金或ハ内外國金銀貨幣ハ試験鑄解

ノ上試験分析シ其品位ニ據テ之ヲ受取ル可シ

第七條 金銀地金若クハ内外國金銀貨幣ノ試験鑄解ヲ要スル者其鑄
解減ハ輸入人ノ負擔タル可シ

第八條 凡テ輸入ノ金銀地金ハ輸入人若クハ其代理者ヲ立會シメテ
秤量シ本局ニ於テハ地金課長出張所ニ於テハ所長ノ假受取證ヲ交
付シ試験分析濟ノ上勘定書ニ試験分析表ヲ添ヘ之ヲ輸入人ニ送付
ス可シ

第九條 輸入人地金勘定書ノ旨ヲ承諾シ之ニ捺印シテ回付スルトキ
ハ輸入地金ノ價額ニ對スル貨幣拂渡證書ヲ輸入人ニ交付シテ假受
取證ト交換ス可シ但勘定書送付ノ日ヨリ三日以内ニ勘定書ヲ回付
セサルキハ承諾シタルモノト爲ス可シ

第十條 代リ貨幣ハ地金ヲ本局ニ輸入シタルトキハ日本銀行大坂又
ハ神戸支店(若クハ代理店)出張所ニ輸入シタルトキハ日本銀行本
店又ハ横濱支店(若クハ代理店)ニ於テ左ノ期日ニ至リ之ヲ拂渡ス

可シ但期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ日本銀行本店又ハ其大坂支店ニ於テ一日萬分壹ノ割引ヲ以テ前渡ヲ爲ス可シ

試驗濟ノ日ヨリ

造幣適當金銀地金

本局ニ輸入シタルモノノ出張所ニ輸入シタルモノ

十日目
二十五日目

精製分析ヲ要スル地金 壹萬圓未滿

同 同 十五日目
三十日目

同 三萬圓未滿

同 同 二十日目
三十五日目

同 七萬圓未滿

同 同 二十五日目
四十日目

同 七萬圓以上

同 同 三十日目
四十五日目

但右期日休暇ニ當ルトキハ翌日拂渡ス可シ

第十一條 鑄造料ハ金貨幣ハ千分ノ七銀貨幣壹圓ハ千分ノ拾ヲ收入

ス可シ若シ試驗鑄解ヲ要スル地金ナレハ更ニ千分ノ壹ヲ收入ス可シ

第十二條 精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但其地金千分中金銀七百五十分以上ヲ含有セサルトキハ需ニ應セス

不純粹金地金

千分中金九百分以上 純金拾チンス
一トロイニ付 金壹圓

同 金八百五十分以上 金壹圓拾貳錢七厘

同 金八百分以上 金壹圓貳拾五錢四厘

同 金七百五十分以上 金壹圓三拾八錢壹厘

不純粹銀地金

千分中銀九百分以上 純銀拾チンス
一トロイニ付 金貳拾六錢三厘

同 銀八百五十分以上 同 金貳拾九錢

同 銀八百分以上 同 金三拾壹錢七厘

同 銀七百五十分以上 同

金三拾四錢四厘

金銀混合地金

千分中金銀九百分以上

純金拾ナンス「トロイ」付 金壹圓

同 金銀八百五十分以上

純金拾ナンス「トロイ」付 金貳拾六錢三厘

同 金銀八百分以上

純金拾ナンス「トロイ」付 金貳拾九錢

同 金銀七百五十分以上

純金拾ナンス「トロイ」付 金壹圓貳拾五錢四厘

第十二條 出張所ニ地金又ハ内外國金銀貨幣ヲ輸入シテ貨幣鑄造ヲ

請求スル者ハ運賃並保險料トシテ成貨壹萬圓ニ付金六拾五圓ヲ納

ム可シ但大坂ニ於テ成貨拂渡ヲ乞フ者ハ其半額ヲ減ス

第十四條 輸入ノ地金貨幣鑄造ヲ爲サスシテ返却スルトキハ左ノ費

用ヲ收入ス可シ

試驗鑄解料

金銀混合地金(千分中金分百)

五百ナンス「トロイ」未滿 金壹圓

同

千ナンス「トロイ」未滿

金貳圓

以上之ニ準ス

金銀混合地金(千分中金分百)

千ナンス「トロイ」未滿

金壹圓

同

千ナンス「トロイ」以上

金貳圓

以上之ニ準ス

試驗分析料

金地金

壹塊ニ付

金貳圓

金銀混合地金

壹塊ニ付

金壹圓

照査試驗料

試驗分析料ニ準ス

第十五條 流通不便ノ貨幣ハ本局若クハ出張所ニ於テ鑑定シ左ノ量

目以上ナレハ左ノ手数料ヲ收入シテ之ヲ受取り其翌日代リ貨幣ヲ

拂渡ス可シ

金貨幣量目五ナンス「トロイ」(凡四拾壹)

千分ノ三半

壹圓銀貨幣量目五拾ナンス「トロイ」(凡四百)

千分ノ五

補助銀銅貨幣

量目ニ制限ナシ

無手数料

鑄破目アリ又ハ音響惡キ貨幣ト雖モ全體ヲ失ハス量目減少セサル者ハ金銀共一枚ヲ以テ一枚ト交換シ手数料ハ受取ラサル可シ

第十六條 金銀地金及ヒ金銀混合地金ニ含有スル雜物ハ渾テ返却セサルヘシ

○紙幣明治四年十二月

沿革略記

明治元年閏四月一時金札ヲ製造シ十三年間通用セシメ○二年二月貨幣製造ヨリ繰替融通ノ爲メ金札増製造ヲ造幣局ヘ達ス○同年五月布告ヲ以テ紙幣増製造ヲ止メ既ニ發行スル總高ノ外發行ヲ停止ス○同年同月布告ヲ以テ金札引替年限ヲ定メ明治五年ヲ期シ其期限中引換殘餘ノ金札ハ利息付公債證書ヲ以テ交換スルモノトナス其方法ハ金札引換公債證書發行條例ニ據ル○同年九月布告ヲ以テ民

部省通商司ニ於テ金貳分以下ノ金札ヲ製造シ大札ト引換ヘシム○四年十二月布告ヲ以テ維新以降發行スル所ノ金札粗造ナルヲ以テ精工ノ新紙幣ヲ製造シ五年二月十五日ヨリ發行セシム○八年一月第三號布告ヲ以テ太政官民部省金札悉皆新紙幣ト交換シ本年五月三十一日限通用ヲ停止ス而シテ右壹圓以下ノ金札ハ同年五月第九十號布告及ヒ九年二月大藏省甲第三號十年三月同省甲第十四號布達ヲ以テ漸次通用ヲ延期シ十一月六年六月同省乙第二十六號達ヲ以テ全ク通用ヲ止ム○十年十二月第八十七號布告ヲ以テ征討臨時費支辨ノ爲メ損札交換豫備ノ紙幣ヲ發行シ其消却方ヲ定ム○十三年二月第五號布告ヲ以テ現今流通ノ紙幣其質脆弱破裂等ノ憂アルヲ以テ拾圓以下三種ヲ改造シ十五年八月第四十五號布告ヲ以テ半圓貳拾錢ノ損傷紙幣交換ノ爲メ五拾錢貳拾錢ノ二種ヲ改造シ漸次交換スルモノトス而シテ現今流通スル紙幣ハ乃チ四年十二月公布ノ新紙幣及十三年第五號十五年第四十五號布告スル所ノ改造紙幣是ナリ

(府藩縣紙幣)ハ明治二年十二月舊幕府ノ許可ヲ受ケ從前製造セシ諸藩楮幣ハ以後其數ヲ増スヲ禁シ維新後製造ノ楮幣通用ヲ停止ス○四年七月布告ヲ以テ舊藩製造ノ紙幣總テ七月十四日ノ相場ヲ以テ退テ交換スルモノトス○同年十二月布告ヲ以テ舊藩錢札ハ退テ引換迄其縣管内限リ七月十四日ノ相場ヲ以テ銅貨價位ニ比較シテ通用セシム○五年七月第二

百七號布告ヲ以テ舊藩紙幣五錢以上ニ當ル分ヲ交換シ其以下ハ追テ銅貨鑄造スルマテ押印シテ通用セシム○七年九月
第二百二十二號達ヲ以テ五錢未滿ノ分銀貨并新紙幣ヲ以テ交
換セシム

五年四月二十五日大藏省
何濟ヲ以テ貳拾圓五錢
ノ發行ヲ止ム

維新已來太政官並ニ民部省發行ノ金札製造ノ粗ナルヨリ贋造ヲ謀ル
者間々有之且又從來舊藩々ニ於テ發行ノ金銀錢札ハ其管轄限リ通用
ノ儀ニ付一般流通ノ便ヲ失ヒ其弊害不少依之今般御多端ノ折柄莫大
ノ入費ヲ不被爲厭精工ノ新紙幣百圓五拾圓貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓
五拾錢貳拾錢拾錢五錢ノ各種ヲ製造シ來壬申年二月十五日ヨリ右各
種ノ内差向壹圓五拾錢貳拾錢拾錢ノ四種ヲ發行セシメ追々製造成功
ノ都合ニヨリ從來官藩兩様ノ金札ト引換候條厚キ御趣意ヲ體認シ無
疑念通用可致尤モ一般引換ノ都合ハ猶追テ相達候儀モ可有之依テ各
種ノ新紙幣相添此段相達候事

別紙布告文ノ通愈來二月十五日ヨリ今般新製ノ紙幣發行致シ候ニ付
テハ僻地小民共ハ前以テ趣意了知セシメ篤ト心得居候様不致テハ或

ハ新奇ノ思ヲナシ厭忌ノ情ヲ生シ候モ難計發行ノ際ニ臨ミ右体ノ事
有之候テハ難相成候條各地方廳ニナイテ厚ク注意致シ末々ニ至ル迄
解シ易キ様更ニ布告文へ假名ヲ加ヘ管下ノ人民へ遺漏ナク布達行届
候様可取計尤モ各府縣へ各種紙幣拾五枚ツ、相廻シ其内壹枚へハ各
種印章及ヒ書込文字等ノ場所へ張紙ヲ以テ記入致シ候間各地方廳ニ
ナイテ同様取計都合ノ地又ハ人民輻湊ノ場所へモ各布告文同様揭示
イタシ置キ廣ク人民へ相示シ候様可致此段更ニ相達候事

○征討臨時費支辨ノ爲メ紙幣發行明治十年十二月
第八十七號布告

九州地方ノ賊徒征討以來莫大ノ臨時費本年ノ歲入ヲ以テ支辨難
相成ニ付損札交換ノ爲メ備置候紙幣ノ内更ニ貳千七百萬圓發行
候事

一 交換ノ爲メ備置候紙幣貳千七百萬圓發行候ニ付テハ目今流通
致居候半圓貳拾錢拾錢ノ紙幣高貳千七百拾萬餘圓ハ來明治十

六年第百二十一號公布ハ
十三年第百四十七號公布ハ
以テ改定シ金札引換公債
條例ト爲ス本類ニ載ス

一年ヨリ明治二十五年迄十五ケ年間ニ補助ノ銀銅貨ニテ交換
致シ右半圓以下ノ紙幣ハ截斷シ其時々可及布告事
一右發行ノ紙幣貳千七百萬圓ハ十五ケ年間ニ交換スヘク候ヘ
紙幣ヲ以テ金札公債證書ニ交換致度旨願出候者ヘハ明治六年
第百貳拾壹號公布ニ準據シ紙幣ト引換公債證書ヲ下付シ年六
分ノ利息ヲ相渡引換候紙幣ハ截斷致シ其時々更ニ可及布告事
右布告候事

○拾圓五圓壹圓三種ノ紙幣改造 明治十三年二月
第五號布告

現今流通ノ紙幣ハ紙質脆弱破裂等ノ憂不少候ニ付此度拾圓五圓
壹圓三種ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條此旨布告候事

但差向壹圓紙幣製造出來ニ付右見本札各管轄廳ヘ下ケ渡置候
事

○五拾錢貳拾錢兩種ノ紙幣改造 明治十五年八月
第四十五號布告
半圓貳拾錢ノ損傷紙幣交換ノ爲メ五拾錢貳拾錢ノ紙幣ヲ改造シ

漸次交換候條當分ノ內在來ノ紙幣ト取交通用スヘシ

但本文紙幣見本ハ大藏省ヨリ各府縣ヘ下ケ渡スヘシ

○贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則 明治九年四月
第五十七號布告

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨
紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ
尋テ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區
戸長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルキハ該廳ヨリ
警察官署ニ通知スヘシ

但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ

十年内務省乙第五號達ヲ
以テ各地方警察出張所并
屯所ノ名簿ヲ更ニ出
張所ノ警察出張所ナ分
シト改稱シ各地名ヲ冠唱セ

遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ

第三條 若シ正贋定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ

第五條 贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

○變造紙幣取扱方九年五月大藏省甲第十二號布達
本年^四太政官第五拾七號公布贋造金銀銅貨幣紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨幣紙幣等贋造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓貳圓ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ贋製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハ裏面ノ紋色別紙ノ通各種ニ疊ヒ描改ノ證ヲ所持人ヘ明示シ其儘警察出張所等へ差出同所於テハ右紙幣ノ原因其外取糺處分相濟候ハ、引揚切ニ取計紙幣寮へ相納候儀ト可相心得此旨布達候事
(別紙裏面紋色略之)

○新舊公債證書發行條例明治八年五月第九十五號布告

沿革略記 明治六年三月第百十五號布告ヲ以テ新舊公債證書發行條例ヲ制定ス○八年五月第九十五號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治六年三月第百拾五號及ヒ同七年六月第六拾六號布告新舊公債證書發行條例別冊ノ通改定候條此旨布告候事

(別冊)

新舊公債證書發行條例

明治五壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ逋債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スルニ付政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス

第一節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五壬申年迄ノ間舊諸縣ニ於テ借用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓壹百圓五十圓二十五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部分ニ別テ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之ヲ拂戻ス

ベシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年迄毎年六月一日ヨリ十五日迄十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ本文總テ其金額ハ大藏省ノ都合ニヨリ（九年第五十號金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ）布告ヲ以テ毎年ノ下六月以下ノ十字ヲ加フ

但明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻ニ當リテ八年四分ノ利息月割ヲ以右抽籤法行ヒシ月迄ノ分下ケ渡スヘシ

第三條 公債證書ノ渡方及ヒ其簿記ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後之ヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別新債ナレハ四十種ノ記號 中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達スヘシ

但此公債證書ヲ其地方管廳ニ送達スルニハ勿論其債主ノ名面金高證書ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添テ相渡スヘシ

第二節 各地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備

ヘ大藏省ヨリ渡サレタル證書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類ヲ分別シテ之ヲ簿冊ニ登記シ且其證書裏面ヘ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條 舊公債證書元金年賦并ニ新公債證書ノ利息渡方手續等ヲ明ニス

第二節 毎年舊公債元金年賦並ニ新公債利足下渡シ方ハ各地方官ニ於テ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取調其年ノ渡方ニナルヘキ利息並元金年賦共金額内譯合計表ヲ作り新公債上半季ノ利息表ハ五月十日迄下半年季ノ利息表及舊公債年賦金表ハ十一月十日迄ニ毎年大藏省ニ差出スヘシ（九年第五十號布告ヲ以テ合計表）

第二節 大藏省ヨリ右合計表ニ從テ其下渡スヘキ金高ヲ拂場所ヘ廻送ノ手續ヲナシ臨時官員出張スルカ又ハ其地方官ヘ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其年ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取り引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節 右切取りタル小札ハ其拂方ヲ爲シタル明細調書ト共ニ直ニ

之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條 新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス

第一節 新公債證書ノ元金拂方ヲ爲スニハ毎年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ右抽籤ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニシ其年拂戻スヘキ金高ヲ定メ此金高ニ證書ノ高ナ部分シ東京或ハ大坂等證書ノ金額最モ多キ場所ヘ「國債寮」ノ官員出張シテ其地方ノ長官及セ公債掛立會ノ上管下ノ證書所持人十人以上ヲ集メ眼前ニ於テ籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ部分ヲ其年ノ拂戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節 抽籤ノ處置相濟ニ賦當ノ記號公定スレハ立會タル證書所持人等ヨリ其抽籤ノ方法公正ナルヲ保證スル爲メ書面ヲ出サシメ然ル後何記號ノ證書ハ何月何日何處ニ於テ拂戻スヘシト云フヲテ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告スヘシ

第三節 右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲナシ公債

拂方ノ官員出張シテ 時宜ヨリテ地方官ニ委任スルコトアルヘシ 其籤ニ當リタル證書引換ニ其拂方ヲナシ其證書ハ拂濟ノ證ヲ印シ明細書ト共ニ直ニ大藏省ニ送納スヘシ

第四節 右拂方ノ取扱 年賦又ハ利息拂方トモ 大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第五節 凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ケ年ヲ過クルキハ一切之ヲ拂渡サス證書所持主ノ損失タルヘシ然レモ其受取難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申出テ認可ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス (十二年第二十六號布告ヲ以テ但書共追加)

但起業公債證書(記名無記名)モ本節ニ準ス又次條改正追加ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名證書ニ適用スルモノトス

第六條 新舊公債證書授受買賣等ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書トモ全ク所持人ノ所有物タレハ他人外國人ヲ除クヘ
讓渡賣渡質入等都テ勝手タルヘシ尤死者又ハ失踪者遺留ノ公債證
書並養子ノ戸主離縁復籍スル時其養家ニ屬スル公債證書ハ特約ア
ルモノ、外總テ其遺留財産ヲ相續スヘキモノ、所有ニ歸スルモノ
トス(十三年第三十號布告)
ヲ以テ但書共改正

但本文讓渡賣渡ハ第二節以下ノ手續ニ照準スヘク又死亡失踪離
縁ニヨリ遺留セル證書ハ此條例附錄第二圖ノ振合ニ依テ名面書
替ノ上管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第二節 證書ヲ授受及ヒ賣買スルニハ雙方ノ示談整ヒシ上ニテ甲ノ
方譲リ主賣主ヲ云フハ證書裏面ヘ形ノ通り裏面記名調印シテ別ニ其證書ノ
種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙受ル者買人ヲ云フノ姓名等ヲ認メ其證書
ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管廳ニ差出スヘシ

但裁判所ニ於テ公賣スル證書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言渡
ニヨリ流質トナリタル證書ヲ有スル者此條例附錄第二圖ノ振合

ニ依テ名面書替ノ上裁判所ヨリ管廳ヘノ通知書ヲ添ヘ管廳ノ檢
印ヲ受クヘシ(十四年第四十一號布告)
告ヲ以テ但書追加

第二節 管廳ノ公債掛ハ右證書ト屆書トヲ受取り其次第ヲ承リ正シ
證書裏面ヘ形ノ如ク裏面年號月日ヲ記シ檢印シテ之ヲ其差出セシ
者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘハ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第四節 右ノ手續ニテ檢印濟ノ證書ヲ甲ヨリ乙ニ渡シタル時甲乙共
同管下ノ者ナレハ別ニ屆書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轄違ヒナレハ
其證書ノ種類記號番號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨ
リ其管廳ヘ速ニ届出ヘシ(十二年第二十六號布告ヲ以テ届出ヘシ)
シノ下若シ遠隔云々ノ百二字ヲ刪ル

但利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ證書他ノ地方ヨリ増加シ來ル
分ハ先買主ノ届出ヲ聞置最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦金受取方
追加表ヲ製シ尙大藏省ニ差出スヘシ

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備ヘ置タル公債
簿冊ヘ其證書ノ金高種類記號番號枚數及ヒ其名面取引ノ年號月日

ヲ登記シ且證書へ割印シテ下ケ渡スヘシ

第六節 右ノ手續ヲ以テ引取リタル證書ヲ更ニ他人ニ外國人譲渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節 新舊公債證書ヲ管轄違ヒニテ讓渡賣買等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳へ其證書ノ種類記號金高及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スル時直ニ公債簿上ヲ削除スヘシ尤此時證書へ割印ヲ爲スニ不及乙管廳ニテハ右送達書ヲ得タレハ直ニ其旨ヲ甲管廳へ回報スヘシ尤甲管廳ヨリ乙管廳へ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人へ托シテ送達スルモ妨ナシ且大藏省へハ一月分翌月五日迄ニ甲乙管廳ヨリ互ニ届出ヘシ(十二年第廿六號布告其送達ヲ云々ノ四十字ヲ刪ル)

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ其證書賣買スルヲ差留置クヘシ

第八節 新舊公債證書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ地方管廳ヨリ

乙地方管廳へ相達スル儀ハ第七節ノ通りタルヘシ本人ハ所持ノ證書種類記號番號金高枚數及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニ届出ヘシ管廳ニテハ公債簿冊へ登記シ證書へ割印シテ下渡スヘシ

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公債證書ヲ讓受買受ムトスル時ハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳ニテハ本管ノ人民同一ノ取扱ヲナスヘシ就テハ年々元利金モ其廳ヨリ拂渡スヘシ

但後日本籍へ復歸スル時ハ本人ヨリ即日管廳へ届出ヘシ管廳ニテハ復歸ノ地方廳へ通達方並本人届方等第八節ノ通タルヘシ
第十節 新舊公債證書所持ノモノ他ノ府縣へ寄留スル時ハ年々元利拂及讓渡シ賣渡シ共寄留地管廳ノ主務トナスニ付寄留セントスル者ハ證書ノ種類記號番號金高枚數共本管廳へ届出ヘシ本管廳ニテハ寄留地ノ管廳へ送達シ寄留地ノ管廳之ヲ受テ取扱ヲナス手續ハ第七節第八節ニ照準スヘシ若シ其身他へ寄留スト雖モ都合ニ因テ

公債證書ハ本管へ殘シ置年々元利受取或ハ讓渡賣渡ヲナス如キハ
寄留地管廳ニテ與カル事ナカルヘシ然レトモ所持高ノ内都合ニ因
テ幾分カ引分ケ寄留先へ携帶スル時ハ其分ヲ本管廳へ届出本管廳
ヨリ寄留地ノ管廳へ送達ノ手續ハ前條ニ記載セル通りタルヘシ尤
本質へ殘シタル證書ハ本管廳ノ所轄勿論ニシテ年々元利受取或ハ
讓渡賣渡等本人ヨリ委任狀ヲ與ヘシ代理人ヲ以テ其取扱ヲナシ妨
ナカルヘシ

但後日本籍へ復歸スル時ハ第九節但書ノ通りタルヘシ

第十一節 都テ讓渡シ又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉
移スルヲ得ヘシ然レトモ前各節ノ手續ヲ了セサル間ハ其讓受主買
主ニ於テ假令其證書ヲ所持スルトモ利賦金及ヒ元金ハ官簿ニ記載
ノ債主ニアラサレハ下渡サス又證書紛失等ヨリ代リ證書ヲ願出ル
モ亦前ニ同シ(十二年第廿六號
布告ヲ以テ改正)

第十二節 毎年六月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息渡シ方并十二月

一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息舊公債元金年賦渡方ヲ爲スニ付五
月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月十五日迄ハ各地方
證書所持人ノ混淆セサル爲メ右證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘ
シ(九年第五十號布告ヲ以テ全節ヲ改正シ十年第三十四號布告ヲ以
テ五月ヲ四月ニ十一月ヲ十月ニ改メ十一年第廿二號布告ヲ以テ
四月ヲ五月ニ十月ヲ十一月ニ改メ十二年第廿六號
布告ヲ以テ讓渡賣買ノ下ノ届出ノ三字ヲ追加ス)

第十三節 公債證書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受クル節ハ其廳主掌官
ノ官名姓名ヲ記シ讓渡等ノ節ハ其官印(官印ヲキキハ其實印)ヲ捺
スヘシ(十二年第廿六號
布告ヲ以テ追加)

但記名者代換ノ時ハ次節ノ手續ニ照準スヘシ(十二年第三十號布
告ヲ以テ但書追加)

第十四節 銀行及ヒ公認シタル會社學校又ハ町村組合等ノ類共同合
資ニシテ所有主壹箇人ニ限リ難クトモ其内主長タル者又ハ證書管
保ノ責ニ任スル者等一箇人ノ姓名ヲ記シ肩書ニ其責任タル名義ヲ
記シ例ハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會社ハ頭取其支店ハ支
配人町村組合ハ總代人等何レモ其責任タル名目ヲ肩書ニシ以テ
一個人ノ私有ニアラサ
ルコトヲ明ニスルノ類而シテ讓渡其他一切右記名者ノ實印ヲ以テ

取引致スヘシ右記名者代換等ノ節ハ右ノ類ニ限リ代任ノ者ヘ引
 繼キ證書書換ニ及ハスト雖トモ代換ノ譯及ヒ其肩書姓名印影ヲ管
 廳ヘ届出ヘシ其廳ニ於テハ簿冊ヘ其譯并名面年號月日等ヲ登記シ
 置ヘシ然ル後代任ノ者更ニ記名者ト成リ讓渡其他一切其肩書姓名
 實印ヲ以テ取引致スヘシ(十二年第廿六號布告ヲ以テ但書共追加十
 三年第三十號布告ヲ以テ於テハノ下發行
 條例云々二十三字ヲ改メ
 冊ヘ云々二十字ニ改ム)

但是迄銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メス所有スル向ハ證書
 書替ニ及ハス本節ニ照ラシ記名者ヲ定メ管廳ヘ届置クヘシ向後
 讓渡其他一切本節ニ照準シテ取引致スヘシ

第七條 新舊公債證書引當物等コナ
 シタル處置ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持人ヨリ
 他ニ預ケ置クコト有リトモ其拂戻スヘキ元金利息ハ其所持人ヘ下
 渡スヘシ尤本人調印シ委任狀ヲ持參セル時ニハ外國人ヲ除クノ外
 何人ヘナリトモ相渡スヘシ

第二節 若シ又質入流込トナリタル類ハ讓リ渡賣買ノ手續ヲナス事

第六條 第二節三節四節ノ通リタルヘシ

第八條 新舊公債證書共裏面并ニ
 引換等ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書讓渡賣買頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至
 ル時ハ其所持人ハ書面ヲ以テ其地方管廳ニ申立證書ノ繼足ヲ願ヒ
 其證書ヲ差出スヘシ

第二節 地方管廳ニテハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ置證書ヘハ
 兼テ大藏省ヨリ渡置タル記名紙ヲ補足シ割印シテ其次第年號月日
 等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之ヲ其所持人ニ渡スヘシ

第九條 新舊公債證書共紛失
 等ノ處置ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ
 證書ヲ盜取ラレシ時ハ何號何番何高ノ證書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラ
 レタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ
 但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時管内ヘ其趣ヲ布達スヘシ

第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ證書ノ種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳ヘ訴出管轄廳ヨリハ即大藏省ニ可届出旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他ノ手續新聞紙ナキ地ハ村町ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレシ月ヨリ七ケ月高札場ニ揭示セシム間管内ヘ公布スヘシ

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡サ、ルヘシ

第四節 七ケ月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フ可キ新證書ヲ作り其地方管廳ヲ通シテ之ヲ所持人ヘ交付スヘシ尤公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣旨ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿

冊ニ記入スヘシ

第十條 新舊公債證書共燒失等ノ處置手續ヲ明ニス

第一節 水火災ニテ證書流失燒失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流失燒失ノ次第ヲ推糺シ判然タレハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ヘ申立ヘシ

但其流燒失若シ判然タラサレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ證書ヲ作り之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

但證書流燒失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分燒切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ

申立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節 其管廳ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ヘ申立書替證書ヲ得テ之ヲ所持人ニ下渡スヘシ

但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 新舊公債證書贋造等之處分ヲ明ニス

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ故ラニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

但舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去餘殘ノ小札金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ルモノトス

第二節 何人ヲ論セス此公債證書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ之ヲ模擬セシメ又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雜形ノ圖畫文字等ヲ所持

刑法第二編第四章第三節
參看

スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルコトアルヘシ

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ
右之通相定候事

(附錄圖面略之)

○ 金祿公債證書發行條例 明治九年八月
第百八號布告

家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ給與有之候處其制限ヲ改メ來明治十年ヨリ別紙條例之通公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條此旨
布告候事

(別紙)

金祿公債證書發行條例

第一條 華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一

時ニ之ヲ下渡スフト爲シ以テ公債證書ヲ付與スヘシ

一 永世祿ノ者ヘハ

金祿元高 賞典祿アルモノハ家

年限

七萬圓以上

五ヶ年分

六萬圓以上

五ヶ年二分五厘分

五萬圓以上

五ヶ年半分

四萬圓以上

五ヶ年七分五厘分

三萬圓以上

六ヶ年分

二萬圓以上

六ヶ年二分五厘分

一萬圓以上

六ヶ年半分

七千五百圓以上

六ヶ年七分五厘分

五千圓以上

七ヶ年分

二千五百圓以上

七ヶ年二分五厘分

千圓以上

七ヶ年半分

右一ヶ年五分ノ利子ヲ給ス

千圓未滿

七ヶ年七分五厘分

九百圓以上

八ヶ年分

八百圓以上

八ヶ年二分五厘分

七百圓以上

八ヶ年半分

六百圓以上

八ヶ年七分五厘分

五百圓以上

九ヶ年分

四百五十圓以上

九ヶ年二分五厘分

四百圓以上

九ヶ年半分

三百五十圓以上

九ヶ年七分五厘分

三百圓以上

十ヶ年分

二百五十圓未滿	十ヶ年二分五厘分
二百圓以上	
二百圓未滿	十ヶ年半分
百五十圓以上	
百五十圓未滿	十一ヶ年分
百圓以上	

右一ヶ年六分ノ利子ヲ給ス

百圓未滿	十一ヶ年半分
七十五圓以上	
七十五圓未滿	十二ヶ年分
五十圓以上	
五十圓未滿	十二ヶ年半分
四十圓以上	
四十圓未滿	十三ヶ年分
三十圓以上	
三十圓未滿	十三ヶ年半分
二十五圓以上	十四ヶ年分

貳拾五圓未滿以下

右一ヶ年七分ノ利子ヲ給ス

一終身祿ノ者ハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

一年限祿ノ者ハ

十一年以上ノ者ハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス
 十年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス
 八年以上
 八年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二三ヲ給ス
 六年迄
 六年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス
 四年迄
 四年未滿ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二三ヲ給ス
 三年迄
 二年ノ者ハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

第二條 此公債證書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ

相渡シ以後之レニ準シ年々兩度ニ下渡スヲトス

但利子下ケ渡シ混淆セサルタメ毎年四月一日ヨリ五月廿八日迄
 十月一日ヨリ十一月廿八日迄ハ證書ノ讓渡シ賣買等ノ届出ヲ見
 合スヘシ(十一年第廿六號布告ヲ以テ但書追加十二年第廿六號布告ヲ以テ賣買等下ニノ届出ヲノ四字ヲ加フ)

第二條 家祿賞典祿元高ヲ付與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生ス

ル元高ニ向テ公債證書ヲ付與スル制限左ノ如シ
譬ヘハ

一金壹萬圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六萬五千圓此公債證書ノ利子一ヶ年五歩金三
千二百五十圓ト成ル

一金九千九百圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六萬六千八百二十五圓此公債證書ノ利
子一ヶ年五歩金三千三百四十一圓廿五錢トナル

右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓廿五錢ノ過ト成ル然ル時ハ壹
萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナス故ニ九十一圓廿五
錢ヲ引去リ利子三千二百五拾圓ニ適當スル公債證書ヲ下渡ヲ以テ
規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債證書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云モ其發行スル種
類ハ左ノ如シ

五圓 十圓 廿五圓 五十圓 百圓

二百圓 五百圓 千圓 五千圓

第五條 前條公債證書ヲ付與スルハニ當リテ公債證書ニ未滿ノ端金
ハ都テ通貨ニテ相渡スヘシ

第六條 此公債證書ノ元金ハ五ヶ年間之ヲ据置キ六ヶ年目ヨリ大藏
省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合二十ヶ年間
ニ悉皆之ヲ消却スヘシ

第七條 此公債證書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都
テ新舊公債證書發行條例ノ通りタルト心得ヘシ

○舊藩貫屬祿高引直願ヲ採用セス 明治九年九月 第百廿三號布告

明治六年二月第二十五號ヲ以テ舊藩々貫屬祿高引直シ願ノ儀同年
三月三十一日限り可申出右期限後ハ一切採用不致旨布告候處爾
後祿高ニ關シ種々願出候向モ有之候得共本年八月第百八號布告ヲ

以テ祿制改定候ニ付總テ現今ノ處置ヲ以テ定度トシ如何様ノ事實有之共一切採用不致候條此旨更ニ布告候事

○祿券賣買ノ家祿公債證書下渡方明治九年十二月第百五十二號布告

家祿賞典祿改制ノ儀本年八月第八號ヲ以テ布告候處右ノ内舊藩廳ニ於テ祿券賣買差許有之從來現場賣買致シタル家祿ノ向ニ限

リ其高ノ多寡ニ不拘總テ拾ヶ年分ノ金高公債證書ヲ以テ一時ニ

下賜來明治十年ヨリ年壹割ノ利息下渡候條右元金消却利金下渡

方等ノ儀ハ金祿公債證書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

○舊藩主賞典祿ノ内ヨリ士民ヘ分與ノ分處分明治十年十二月第百八十二號布告

家祿賞典祿ノ儀明治九年八月第八號ヲ以テ布告及置候通本年ヨ

リ金祿公債ノ處分相成候ニ付テハ舊藩主ヘ下賜賞典祿ノ内ヨリ

代數ヲ限リ或ハ終身或ハ年限ヲ以テ士民ヘ分與セシ分ハ舊藩主

ニ於テ適宜處分可致候條此旨布告候事

○配當祿公債證書明治十年三月第三十二號布告

沿革略記 明治四年七月官國幣社已下神官ノ祿制ヲ定ム○九年

一月第四號達ヲ以テ舊幕府及ヒ古昔武將等ヨリ附與

セシ朱黑印地社寺ノ内其神官僧侶等へ食祿トシテ社寺領ノ

外充行ヒシ特名ノ別朱印有之分ハ家祿給與ノ沙汰ニ及ヒ一

紙中ニ神官僧侶ノ名前又ハ各種ノ名唱ニテ從前收入セシモ

ノ全シ該社寺領ノ内ヨリ配當セルモノハ家祿ハ給與セサル

モノトス社寺領ハ四月正月五日布告一般ノ知セシ同年六

月ノ都合ニ依リ七月八日現收院ノ租額ヲ一七ノ年九月分マ

布告テ以テ半租給與シテ舊藩主ノ均九分五厘ノ制ニ改

メテ法ニ改メ給與シテ舊藩主ノ均九分五厘ノ制ニ改

第三十二號布告ヲ以テ舊神官ニ配當祿公債證書支給方ヲ定

ム是レ現行法ナリ

各社領朱黑印地並除地收額中ヨリ從前配當受來候舊神官ノ輩ハ右配當高ヲ別紙祿制ニ引充候上金額ニ換ヘ五ヶ年分ノ合計配當祿公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條右公債證書ハ明治八年八月第百三十號布告ノ通可相心得此旨布告候事

但配當米金受來候者ハ確證相添來ル四月三十日限り其管轄廳へ可
申出若シ右期限後ニ至リ如何様ノ事情申出候共採用不相成候條此
旨兼テ可相心得事

(別紙)

祿制

配當現米

千石以上

祿制現米

三百石

九百石未滿

貳百八拾石

八百石未滿

貳百六拾石

七百石未滿

貳百四拾石

六百石未滿

貳百貳拾石

五百石未滿

貳百石

四百石未滿

百六拾貳石五斗

三百石未滿

百貳拾五石

二百石未滿

八拾七石五斗

一百石未滿

五拾石

九拾石未滿

四拾五石貳斗貳升

八拾石未滿

四拾石四斗四升

七拾石未滿

三拾五石六斗七升

六拾石未滿

三拾石八斗九升

五拾石未滿

貳拾六石壹斗壹升

四拾石未滿

貳拾壹石三斗三升

三拾石未滿

拾六石五斗六升

貳拾石未滿

拾壹石七斗八升

拾石未滿

七石

五石以下

從前之通

○配當祿公債證書元金渡方手續明治八年八月
第三百三十號布告

明治七年^三第三十九號布告家祿引換公債證書發行條例自今相廢止候條左ノ二ヶ條ノ外諸般ノ手續總テ本年^五第九十五號布告新舊公債證書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

一家祿引換公債證書ノ元金拂渡ハ家祿引換相渡候三ヶ年目ヨリ七ヶ年ノ間ニ政府ノ都合ニ寄り抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ

一年八朱ノ利息ハ年々十一月一日ヨリ十五日迄ニ拂渡スニ付證書所持人混淆セサル爲メ十月一日ヨリ十一月十五日迄ハ證書

ノ賣買讓渡等ノ届出ヲ見合各管廳於テ十月一日證書所持人ノ數ヲ取調其季ノ拂方ニナルヘキ名面並金高内譯合計表ヲ作り

同月十五日迄ニ大藏省ヘ差出スヘシ^テ十年第三十四號布告ヲ以テ爲メノ下テ六月一日ヨリ十一月十五日迄ト改メ十一月第二十二號布告ヲ以テ九月十日ヨリ十二月二十六號布告ヲ以テ讓渡等下ニノ届出ヲノ四

加フナ

○金札引換公債條例明治十三年十月
第四十七號布告

沿革略記

明治二年五月布告ヲ以テ戊辰年發行セシ所ノ十三ヶ年限リ通用金札ノ引換方法ヲ定メ期スルコト已ヨリ壬申ニ迄ル新貨幣ニ交換シテ收却セシム期年猶殘餘ノ金札所持スル者アレハ一月五朱ノ利子ヲ附與スルモノトナス○六年三月第百二十一號布告ヲ以テ前キニ布シ所ノ一月五朱ノ利子即チ年六分ノ利付キトシ公債證書ヲ下渡スモノトナス是ニ至テ金札引換公債證書發行條例ヲ制定ス○十三年十月第四十七號布告ヲ以テ前條例ヲ改正ス是レ現行法ナリ

明治六年^三第百貳拾壹號布告金札引換公債證書發行條例并改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事

(別冊)

改定金札引換公債條例

第一章 總則

第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五十圓ノ三種トス

第三條 (十六年第四十八號) 布告ヲ以テ停止

第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ケ年据置四ケ年目ヨリ向十二ケ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ケ年六分ノ百分ニ至ル迄毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ

但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割抽籤日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日後ヨリ以テ右抽籤法ヲ行ヒシ係レハ半ケ月分ヲ下渡スヘキモノトス

并迄ノ分下渡スヘシ

第三章 證書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣並ニ紙幣ノ高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ
第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領證ヲ交付スルヲ各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管廳へ送達スヘシ

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛ノ簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側へ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加へ本人へ渡置キタル受領證ト引換へニ證書ヲ交付スヘシ

但證書交付ノ後他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ每翌月五日迄ニ大藏省國債局ニ届出ツヘシ

第十一條 公債證書ト引換へタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日迄ニ之ヲ取纏メ明細表ヲ添へ大藏省國債局へ送致スヘシ

第四章 證書ノ様式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債證書ハ從前ノ金札引換公債證書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書ヲ以テ點竄スヘシ

第十三條 金札引換公債證書ノ所有者ニ於テ初メテ之ヲ他人外國人ヲ除ク

へ賣渡シ若クハ讓渡サントスル時ハ其證書ヲ其地方管廳へ差出シテ繼足紙ヲ請願スヘシ

管廳ニ於テハ新舊公債證書ニ用フル繼足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付繼印シテ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日迄十月一日ヨリ十一月十五日迄證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト引換ユヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ヲキノ件ハ都テ明治八年五月第九拾五號布告改正新舊公債證書發行條例第四條ヨリ第十二條迄及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ箇條ニ準據スヘシ

○金札引換無記名公債證書條例明治十六年十二月第四十八號布告

金札引換無記名公債證書條例左之通制定シ明治十二年十月第四拾七號布告金札引換公債條例第二條ヲ停止ス

金札引換無記名公債證書條例

第一條 金札引換無記名公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス
此公債證書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス

第二條 此公債證書ハ望人ノ申込ニ任セ大藏卿隨時之ヲ發行スルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコトアルヘシ

第三條 此公債證書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス

第五條 此公債證書ハ證書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定ム此證書ヲ引受ケンコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行本支店又ハ代理店へ申出ヘシ

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ三十ヶ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス
此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ
滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日前ナレハ其下半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌

月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ二十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スル者拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并證書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地

ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ證書ヲ發見セズ其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシトナ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手數料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ

亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過クルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

○ 起業公債 明治十一年四月
第七號布告

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ンニスルタメ新ニ壹千貳百五拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スヘキニ被決定右募債方一切大藏卿ヘ御委任相成候條此旨布告候事但詳細ノ儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○ 起業公債證書發行條例 明治十一年五月
大藏省甲第十三號布達

今般内國債募集ノ儀ニ付本年^{四月}太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債證書發行條例別冊ノ通り相定メ施行セシメ候條此旨布達候事

(別冊)

起業公債證書發行條例

此公債ハ明治十一年^{四月}太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 公債證書ノ元高種類
並利息ノ制限ヲ示ス

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五拾萬圓ニシテ年六分^{百分}ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三箇年目(即チ明治十二年)ヨリ向二十三箇年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)毎年大藏省ノ

都合ヲ以テ(第四條ニ掲クル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スヘシ而シテ其利息ハ(第三條第二節ノ但書并ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ミ皆済ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ

但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割抽籤十五日以前ニ係ルハ前月迄ノ分十六日ヲ以後ニ係レバ半箇月分下渡スヘキモノトス以テ右抽籤法ヲ行ヒシキ迄ノ分下渡スヘシ

第二節 此公債證書面ノ金高ヲ五百圓、百圓、五拾圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス

但本文ノ利札ハ每半年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切取り引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 公債證書授受賣買等ノ手續概略ヲ示ス

第一節 此公債證書ハ(第六條ニ掲クル)記名ニ變改スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サス故ニ書換又ハ管廳ノ檢印ヲ受クル等

ノ手數無クシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意タルヘシ

但質入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タルヘシ

第二條 募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス

第一節 此公債ノ募集方并ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行并ニ三井銀行ヘ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所及ヒ利息并ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店若クハ支店及ヒ其取引仲間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フヘシ

第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割拂ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ廣告スヘシ

但第三割拂迄ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ(十一年大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ但舊割註四十字ヲ本條第四節中月割ノ下ニ移シ計算スルモノトスノ下十二字ヲ削ル)

第二節 右四度ノ内手付金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割拂ニ一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假證券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假證券ヲ以テ舊假證券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込濟ニ至リ此公債證書ヲ假證券ト引換ニ交付スヘシ

但公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第四節 手附金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割拂込十五日以前ニ係ルハ半ケ月分十六日以後ヲ以テ係レハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ(十一年大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ月割ノ下ニ第二節但舊割註拂込以下ノ四十字ヲ移ス)

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初

度ノ手付金相濟ミ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサルヘシ

第六節 出金未タ皆濟ニ至ラス此公債證書ヲ受取ラサル以前タリトモ當人ノ都合ニヨリ第一割拂ヨリ交付シタル假證券ヲ授受賣買質入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルヘシ尤モ授受賣買ノ節ハ其證券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所トナ記載シ且調印スルモノトス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スル片ハ本條第五節ノ通タルヘシ

第七節 若シ申込ノ出金高募集スヘキ見込高ヨリ超過スル片ハ該銀行ニテ之ヲ總体ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤モ

其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ滅却スルヲモブルヘシ

第四條 抽籤ノ手續 概略ヲ示ス

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公債證書(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スヘシ

第五條 證書ノ毀損紛失盜難流(十一年大藏省甲第二十三號燒失等ノ心得方ヲ示ス)布達ヲ以テ毀損ノ下紛失云々(七字ヲ加フ)

第一節 此公債證書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アルトモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク正真ノ證書タルヲ保認スヘキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲スヘシ尤モ過失ニテ此

公債證書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アルハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シ後之ヲ大藏省ヘ具申シ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該證書面ニ金高番記號ノ部分必ス判然存在シ真正ノ證書ニ相違ナシト見認ムル分ハ之カ引換ヲ爲スヘシ
但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ
第二節 此公債證書紛失盜難又ハ流燒失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有トナリシキノ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置債却年限ノ末期ニ至ル迄該證書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違ナキニ於テハ該證書ニ對シテ積リタル利息元金トモ一同ニ之

ヲ拂渡スヘシ(十一年大藏省甲第廿三號布達ヲ以テ追加)

第三節 前節届出ノ後該證書顯出シ而シテ未タ犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知り轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サスシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スコトヲ得ヘシ(十一年大藏省甲第廿三號布達ヲ以テ但書共追加)

但前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キキハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フコアルヘシ

第六條 記名公債證書ニ變改スル手續並ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス

第一節 此公債證書ハ授受買賣等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレモ所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名證書ト爲スコトヲ得ヘシ其變改ノ手續并ニ規則等左ノ如シ

第二節 無記名證書ヲ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非ラス又證書本紙ニ記名スルニ非スシテ本條第四節ノ取扱ヲ以

テ之ヲ定ムルモノトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ(支店并ニ取引仲間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ)請願人ノ姓名住所并ニ入用證書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名極印濟ミノ證書ヲ(記名紙相添ヘ)受取り之ヲ其本人ヘ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クヘシ

第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該證書ニ記名タル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ヘ送付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管廳ニテハ該證書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該證書ニ記名紙ヲ糊付シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ捺印

ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與スヘシ

但一旦無記名證書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル

者ハ該證書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ

添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ證書ノ受取書ヲ渡

シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟ノ證書并ニ記名紙ヲ受

取リ成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモ

ノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏省ヨ

リ受取リ置クモ適宜タルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名證書ヲ記名證書ニ變改シタル上ハ之

ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流燒失等ノ

廉ハ明治八年^五太政官第九十五號布告改正新舊公債證書發行

條例第六條七條八條九條十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記

名公債證書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並不

用ノ廉々左ノ如シ

八年第九十五號布告新舊
公債證書發行條例ハ本類
ニ載ス

但元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債證書ト同様ナルモノト
ス

右條例第六條ヨリ第十條マテノ中ニ「新舊公債證書共并ニ新

舊公債證書」トアルハ都テ「此記名公債證書」ト改ム同第六條第

一節但書ノ「其都度大藏省ヘ届出ヘシ」ヲ「置クヘシ」ニ改ム

同條第二節ニ「證書裏面ヘ形ノ通り^{裏面}及ヒ同條第二節ノ「證

書裏面ヘ形ノ如ク^{裏面}ハ都テ「記名紙ヘ末ニ附スル雛形ノ通

リ」ト改ム

同條第二節ノ「大藏省ヘハ云々」ヲ十五字ヲ「置クヘシ」ニ改ム

同條第四節ノ但書ヲ削除ス

同條第五節並ニ第七節八節ノ「證書ヘ割印」ハ都テ「記名紙ヘ割

印」ニ改ム

同條第七節ノ「且大藏省ヘハ一月分翌月五日迄ニ云々」ノ二十

七字ハ不用

同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スヘシ」ニ改ム

同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字并ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム

同第七條第一節ノ「其所持人へ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人タリモ其持參人へ（外國人ヲ除クノ外）相渡スヘシ」ニ改ム

同第八條割註ノ「二十一」字ヲ此公債證書記名紙繼ニ改ム

同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘枿」ニ改メ「證書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム

同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス

同條第二節ノ「地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム

刑法第二編第四章第三節
參看

第七條 證書贗造等ノ處分ヲ示ス

第一節 此公債證書（無記名記名トモ）ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲ爲スヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節 此證書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ贗造セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用シ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコトアレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補シ又ハ之ヲ改正スヘシ

第二節 右増補改正等アルルハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

(別紙雛形略之)

○ 中山道鑛道公債證書條例 明治十六年十二月
第四十七號布告

中山道鑛道公債證書條例左ノ通制定ス

中山道鑛道公債證書條例

第一條 中山道鑛道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下美濃國大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ及ヒ大垣ヨリ三重縣下伊勢國四日市ニ至ルマテ鑛道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス(十七年第十號布告ヲ以テ中山道ニ沿ヒノ下ニ及ヒ以下貳拾壹字ヲ加フ)

第二條 此公債證書發行高ハ二千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行スルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ定ムルモノトス

第三條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

第五條 此公債證書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルキハ其超過高ニ比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡

スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マ
テノ利子ヲ拂渡スヘシ

満期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテジ分ヲ拂渡ス
モノトス

此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以
テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌
月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之
ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ二十
日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切
取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算
ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債證書ヲ多額所持スルモノ
拾名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執
行シ其當籤證書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノ
トス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由并證
書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地
ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止
ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以
テ届出ヘシ

第十四條 此公債證書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證
書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手數料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

○大藏省證券條例 明治十七年九月
第貳拾四號布告
大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

(別紙)

大藏省證券條例

第一條 大藏省證券ハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條 大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

第三條 大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ別テ其仕拂期限ハ三ヶ月六ヶ月九ヶ月トス但其仕拂期日ハ各證券面ニ記載スヘシ

第五條 大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條 大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條 大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條 大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ヶ月間ハ之ヲ仕拂フヘシ滿六ヶ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サ、ルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條 大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其真正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラザレハ引換サルヘシ

第十條 大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券

面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條 亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ滿足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條 大藏省證券ヲ偽造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

○第七類

○傳染病豫防規則 明治十三年七月
第三十四號布告

沿革略記

明治十年八月內務省乙第七十九號ヲ以テコレヲ病豫防法心得方ヲ達ス○同年十月同省乙第九十一號達ヲ以テ虎列刺病豫防ニ就キ沿海諸港ニ於テ内外國船舶出入取扱方ヲ定ム○同年十二月同省乙第一百十七號達ヲ以テ虎列刺病流行地方ニ於テ冬日沍寒ノ時ニ乘シ便所下水芥溜等修繕淨除ノ方法ヲ設ケ該毒再萌ノ豫防ニ注意セシム○十二年六月第廿三號布告ヲ以テ虎列刺病豫防假規則ヲ制定ス○同年八月第卅二號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス○十三年七月第三十四號布告ヲ以テ十二年第三十二號布告ヲ廢シ更ニ傳染病豫防規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

明治十二年八月第三拾貳號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則
左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埜利、亞發疹、窒扶私、及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及ヒ警視本署ニ届出ヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ナシ

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ(十三年第五十四號布告ヲ以テ本項追加)

第二條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルキハ其性状ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶

十四年第一號達ヲ以テ警視廳ヲ迄ク

交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

但(十三年第五十四號布告ヲ以テ刪除)

第四條 (十三年第五十四號布告ヲ以テ刪除)

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹、窒扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ
第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶スシムヘシ

十五年第四十七號布告ヲ以テ第八條中病名票貼付ノ儀當分ニシテ施行セス

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ厠間、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來

ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ一症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ(十五年第四十八號布告)
(ヲ以テ本項但書共追加)

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ボサル様遮斷シ得ヘキモノト見認ルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得

(十四年第五十八號布告)
ヲ以テ本項但書共追加)

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸窒扶私病

第十六條 腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹窒扶私病

第十九條 發疹窒扶私病者アルルハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十一條第十二條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ(三十

年第五十四號布告ヲ以テ改正)

第二十條 發疹窒扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラザレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 瘡痘病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ(十五年第四十八號布告ヲ以テ改正)

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルルハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルルハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルルハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

刑法第二編第五章第三節
第四項參看第四百二十六條
第十四條第七十二號布告罰
例處斷方參看以下條之第
十四類ニ載ス

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則明治十五年六月第三十壹號布告
虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸并積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ緣故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シクハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸上スルノ許可ヲ與フ可シ
第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分ス可シ

第五條 此規則施行始終ノ期日并ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ

○檢疫停船規則 明治十二年七月
第貳拾九號布告

沿革略記

明治十二年七月第廿八號布告ヲ以テ海港虎列刺病豫
防規則ヲ制定ス○同年同月第廿九號布告ヲ以テ前令
ヲ改正シ檢疫停船規則ト改稱ス是レ現行法ナリ

明治十二年七月第二十八號布告海港虎列刺病傳染豫防規則別冊ノ通更
正シ檢疫停船規則ト改稱候條此旨布告候事

(別冊)

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンタメ茲ニ左ニ掲クル規
則ヲ開港場ニ施行スルコトヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令ス
ル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ
受ク能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役

ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多
寡ニ應シテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ
差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ

都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定
メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院并ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ
病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所并ニ
停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘ
シ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港
ノ前検査ノタメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少クモ一名ヲ派出シ
テ之ヲ検査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船
長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應
答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印

シテ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐れアルキハ其検査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名録ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヲ得ヘシ

第五條 虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルキハ該船ハ直チニ入港スルヲ得ヘシ軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルキハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルキハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性

虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシト無ク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシト無キ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ
船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ
患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エザレハ其容体ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未タ済マサルキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ
患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用シ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特

ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ残りタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ陸揚配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ

避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルヲ得ス

第十三條 船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキ時ハ停留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置クヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サル、コアルヘシ

第十四條 檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ源因ヲラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物

ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ
又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルキハ該船又ハ其
乗込人及ビ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内
ヨリ上陸スル者アルキハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ
處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來着
後十二時間ヲ過キテ検査ヲサ、ル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其
遲延天氣悪キガ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルガ爲メカ又ハ船長若
クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐僞ニ出ツルガノキハ此限ニテ
ナス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルキ検査ヲ爲スヘ
シ

第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ
其船ノ士官及ビ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法バ之ヲ命シタル時ニ
成ル限ケ二十四時間ニ完了シテ其入費ハ船主又ハ其責アル

者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺
病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘ
シ
然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地
方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及検査ノ方法ヲ反復
施行スヘシ

第十九條 虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒法患
者及ビ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行ス
ル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ビ人員停留ノ規則
ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局
ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トス
ルキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコヲ得ヘシ其場合ニ方リテ地

方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ムキハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ
但シ罰金ハ科セサルヘシ

刑法第二編第五章第三節
及第四編第四百二十六條
第十四條第七十二號布告訓
例處斷方參看第十四類ニ
載ス

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

○天然痘預防規則 明治九年五月 內務省甲第十六號布達

沿革略記 明治三年四月府藩縣ヲシテ種痘法ヲ人民ニ普及セシム
○七年十月文部省第二十七號布達種痘規則ヲ以テ種痘ノ時期等ヲ定ム
○九年五月內務省甲第十六號布達ヲ以テ天然痘預防規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

天然痘預防規則別紙ノ通相定候條其方法細目並ニ右ニ關スル資用收集支給等ノ儀ハ各地方ノ便宜ニ從ヒ精々普及候様可取計此旨布達候事

(別紙)

天然痘預防規則

第一條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ス種痘スヘシ若シ事故アリテ此期ニ後ル、モノハ其次第ヲ醫務取締若クハ區戸長ニ届クヘシ

但初種ノ後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ

第二條 種痘シタル者ハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證書ヲ請取置クヘシ

但天然痘變痘ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ證書ヲ請ケ取り置クヘシ

第三條 醫務取締若クハ區戸長ハ初種ノモノ再二ノモノ及ヒ事故アリテ種痘スルヲ能ハサルモノ等夫々検査シ地方廳ニ届ケ出ツヘシ

第四條 地方廳ニ於テハ醫務取締若シクハ區戸長ノ届書ヲ以テ半年分ツ、取纏メ毎年三月九月内務省ニ出スヘシ

第五條 送籍ノ時ハ必ス第二條ニ掲クル醫師ノ證書ヲ所持スヘシ但滿二十五年以上ノモノ并ニ天然痘濟ノ證跡アルモノハ此限ニ

アラス

第六條 管内ニ於テ天然痘流行スルキハ管廳ヨリ流行ノ緩急病症ノ輕重等ヲ接近ノ府縣ニ報告シ且内務省ニ届ケ出ツ可シ

第七條 前條ノ際ニ臨テハ未痘兒ハ勿論種痘濟ノ者ニ至ル迄年齢期限ヲ問ハス普ク接種スヘシ

但未決既決監獄繫留ノ囚徒ハ本條ニ準シ官ヨリ接種セシムヘシ

第八條 第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セス或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ミ若クハ他人ヲ蠱惑スル等ノモノハ「違式誣違」ヲ以テ論シ罰金ヲ科スヘシ

刑法第四編第二十六條第四項參看

○牛豚類參養取締明治六年五月
第百六十三號布告

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處溫暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健

牛豚類參養取締

康ヲ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ醸シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ參養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退參養可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ參養不相成候尤乳汁榨取ノタメ參養候ハ被差許候へ共不潔臭穢ノ儀モ有之候へハ詮議ノ上可令取拂事

○賣藥規則 明治十年一月 第七號布告

沿革略記 明治三年十二月賣藥取締ノ事務ヲ大學東校ノ所轄ト爲シ且從來賣藥ノ内有名無實ニシテ猥リニ勅許御免等ノ文字ヲ用フルヲ禁シ神佛ノ名ヲ假リ或ハ秘傳秘法ト唱へ小民ヲ欺キ利ヲ射ルノ弊害ヲ除キ爾後有益ノ藥法ヲ施爲

シテ之レカ方法檢査規則手續等ヲ開申セシム○同年十二月賣藥取締規則ヲ頒布ス○五年七月第貳百貳號ヲ以テ前令廢止ノコトヲ布告ス○六年十二月第四百廿九號布告ヲ以テ賣藥取締更ニ文部省ノ管理ト爲シ藥味分量及用法等取調製劑ヲ添へ同省ノ檢査ヲ受ケシム○八年六月第百十二號布告ヲ以テ衛生ノ事務ヲ內務省ニ屬セシム○十年一月第七號布告ヲ以テ賣藥規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

賣藥規則

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ(十年第八十九號布告ヲ以テ改正)

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量效能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十一年第廿七號轉廳ノ下ヲ經由シテ內務省ノ八字ヲ剛ル)

但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所
毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ(十五年第五十二號布
告ヲ以テ但書追加)

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ
拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スル
モノハ之ヲ許サ、ルヘシ(十一年第廿七號布告ヲ以テ內務省ヲ管轄
廳ニ改メ毒藥ノ下ニ劇藥ノ二字ヲ加フ)

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セン
ト欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘ
シ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍
氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結
タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ(十年第八
告ヲ以テ改正十一年第廿七號布告ヲ以テ鑑札ヲ受
ノ下ケ管轄廳以下十三字ヲ刪リシノ一字ヲ加フ)

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ
第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シ

テ行商ヲ爲サシメント欲スルモノハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ
願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ
以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊
鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許
スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第二條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ
更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル時ハ直ニ
鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ(十一年第廿七號布告ヲ
以テ有害ヲ有害ト改ム)

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣
子共其販賣ヲ許サス
第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔
細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ(十年第八號布告ヲ以テ改正)

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ(十四年第八號布告ヲ以テ賣藥營業者ノ下及ヒ請賣者ノ五字及ヒ賣藥請賣鑑札料賣藥行商鑑札料ノ二項刪除)

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓
右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ムヘシ(十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ二月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ(十一年第四號布告ヲ以テ税金納期改正)

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ(十一年第七號布告ヲ以テ有害ヲ有害ト改ム)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請

賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十四年第十六號布告ヲ以テ營業スル者ノ下ヘ又ハ營業者以下三十八字ヲ加フ)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其

刑法第二編第四章第五節
及第二編第五章第五節
看

賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○藥品取扱規則明治十三年一月
第壹號布告

沿革略記 明治七年九月文部省ヨリ毒藥取扱方法ヲ東京京都大阪ノ三府ニ達ス○同年十二月藥品ノ賣買取締方法ヲ三府ニ達ス○十年二月第廿號布告ヲ以テ毒藥劇藥取扱規則ヲ制定ス○十三年一月第壹號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ藥品取扱規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年二月第二十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條 凡ノ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類注意トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類毒トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇トス其類目別表ノ如シ但新タニ發見及ヒ舶齎シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラヌ若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故意ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノ、類ヲ云フハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ其試驗ヲ受クルコトヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スル

ニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

刑法第二編第五章第五節
第十四年第七十二號布告額
例處斷方參看第十四類ニ
載ス

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋品ニ故意ニ他ノ物品ヲ本品
ニ増スモノ若シハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ敗品ニ總テ酸敗風化或ハ潮解
擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云フ若クハ黴醜ヲ生シ陳
敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本性ノ効力ヲ變テ販賣スルモノハ其贋敗
品ヲ没入シ三拾圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ壹月以上壹年半以
下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ
壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ壹日以上貳拾五日以下ノ懲役
ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ貳倍以下ノ罰
ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類 注意表

- 印度大麻葉及其製劑
- 黃芩葉并根及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 番木鱧子及其製劑

乳酸鐵

スブシ子

吐根

吐酒石

礮砂精(アンモニア水)

ヂキタリス葉及其製劑

カラバル豆及其製劑

肝油

ヨシウム

沃土加里

沃土鐵舍利別

第一沃土汞(黃色沃土)

第一コロール汞(甘汞)

第二コロール汞(昇汞)

藥品取扱規則

炭酸アンモニヤ (福砂華)
 老利爾結兒私水并苦扁桃水
 蔓陀羅華及其製劑
 葯刺巴脂并球根及其製劑
 芫菁 (斑猫)
 コロ、フオルム
 コロラルヒドレート
 格魯失屈謨實及其製劑
 格魯重篤實及其製劑
 アトロヒ子鹽類
 阿片製劑
 カントニー子
 醋酸アシモニア水 (ミンデレリ精)
 薩爾撒根

サリシール酸及鹽類
 機那皮
 規尼涅鹽類
 綿馬及其製劑
 硝酸銀
 失鳩答草及其製劑
 蔞酸セリウム
 臭素加里 (ブロームカリウム)
 (臭素別篤亞私)
 エーテル (アール)
 鹽基性硝酸蒼鉛
 ヒヨス葉及其製劑
 蓖麻子油
 莫爾比涅鹽類
 水素還元鐵

第二類毒表

磷

カンタリデー子

クラール (矢毒ウラン)

亞砒酸 (異名白砒石礬石) 其製劑及砒抱合物 (鷄冠雄黃雌黃ノ類)

揮發苦扁桃油

有毒性アルカロイド并其鹽類

ニコチ子。デキタリ子。ナルセー子。ヴェラトリ子。ブルシ子。ユニ

ー子。ユデー子。アトロヒ子。アユニ子。エメ子。ヒヨシアミ子。

モルヒ子。ストリキニー子。等

猛劇汞劑

白降汞。第一沃汞。第二沃汞。昇汞。赤降汞。硝酸亞酸化汞。青酸汞。生

々乳

青酸及其製劑

第二類藥表

印度大麻葉及其製劑

荳蔻葉并根及其製劑

番木鱉及其製劑

巴豆及巴豆油

麥奴及其製劑

ポドヒリオン

ヘルレボル根及其製劑

吐根及其製劑

吐酒石其他安質莫尼製劑

毒高苜及其製劑

藤黃

デキタリス葉及其製劑

硫酸

カラバル豆及其製劑
 苛性加里 (腐蝕加里)
 苛性曹達 (腐蝕曹達)
 芥子油及芥子精
 甘汞及輕粉、汞灰散、藍丸
 ヨヂウム及其製劑
 沃土加里
 ヨヂウム鐵
 ヨードホルミウム
 雙鸞菊球根 (烏頭) 及其製劑
 老利爾結兒私水并苦扁挑水
 ズエラトリ根
 過酸滿俺酸加里及曹達
 藥刺巴脂并球根及其製劑

蔓陀羅華葉及其製劑
 芫菁 (斑猫) 及其製劑
 ケンチソート
 プロミウム (臭素) (ナローム)
 コローム酸
 コルシクム實并根及其製劑
 コロシント實及其製劑
 コロ、フォルム (迷朦水)
 コロトシコロラルヒドレート
 コロラルヒドレート
 コロダイン
 コローム酸加里及重コローム酸加里
 阿片及其製劑
 亞鉛華其他亞鉛製劑

サビナ葉及其製劑

醋酸鉛(鉛糖)其他鉛製劑

サントニー子

次醋酸銅其他銅製劑(酸化銅類)

硝酸(硝石精)

硝酸銀

失鳩答葉及其製劑

臭素加里

鹽酸(海鹽精)
(鹽化氷素酸)

鹽化金ナトリウム

鹽酸重土其他重土製劑

鹽基性硝酸蒼鉛其他蒼鉛製劑

エウホルピウム及其製劑

ビヨス葉及其製劑

石炭酸

瑞香皮及其製劑

スカンモノト脂

○石炭酸等傳染病流行ノ際販賣方明治十三年五月
第貳拾三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年一第壹號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ
可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候
分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願
出此旨布告候事

○藥用阿片賣買并製造規則明治十一年八月
第廿壹號布告

沿革略記

明治三年八月布告ヲ以テ生阿片取扱規則ヲ制定ス○
十一年八月第廿壹號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ藥用阿片

賣買并製造規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買并製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事

藥用阿片賣買并製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ其内國產若クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ然ル後々各司藥場ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシムヘシ

但各司藥場ヲ置カサル地方ニ於テハ該地方廳ヨリ之ヲ拂下クヘシ

第三條 各司藥場ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ量目壹匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼附スヘシ

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ内務省ニ稟議シ鑒札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交

付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑒札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑒札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公

私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑒札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大

書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄

司藥場司藥場ナキ地方ハ該地方廳ニ申立テ其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨

時拂下ケヲ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルキハ

其量目并ニ其住所姓名及年月日病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ調印シ

タル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ

之ヲ賣渡スニ其量目一度四拾匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スル
ト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ
以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥
舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受并ニ壹匁以上賣捌ノ高及ヒ買
人ノ住所姓名并ニ壹匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其
管轄廳ニ差出スヘシ尤壹匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨
時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差
出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供ス
ヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採

收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑒札ヲ受クヘ
シ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シ
タル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上
ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサル者トスルキハ地方廳ヨリ
其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ
相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ
該藥主用ノ性分即チ「モルヒネ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 內務省ニ買上ケ及ヒ拂下クル所ノ阿片ハ百分中ニ「モル
ヒネ」六分以上十一分ニ至ルマテ含有スル者ニ限ルヘシ

第十六條 此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造
ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科

スヘシ

○醫師免許規則 明治十六年十月 第三拾五號布告

沿革略記

明治六年六月第八拾九號達ヲ以テ現時醫術開業者ノ
 明細書及醫師ノ人員等ヲ申達セシム○七年三月文部
 省達ヲ以テ醫制ヲ定メ先ツ三府ニ於テ漸次施行セシム○八
 年二月文部省ヨリ醫制ニ基キ新ニ醫術開業者ノ試験科目ヲ
 三府ニ達ス○同年四月醫制ヲ改正ス○同年六月第百拾貳號
 布告ヲ以テ文部省管理衛生ノ事務ヲ内務省ニ屬ス○九年一
 月内務省乙第五號達ヲ以テ新ニ醫術開業セントスルモノ、
 試験科目ヲ定ム○十年八月内務省乙第七十六號達ヲ以テ維
 新以來官廳及地方公立病院ニ於テ醫術ヲ以テ奉職從事ノ者
 ハ試験ヲ須ス免狀渡方ヲナサシム○十二年二月内務省甲第
 三號達ヲ以テ文部卿ノ認可ヲ得タル醫學校ノ卒業生ハ試験
 ナ要セス開業免狀ヲ下付スルモノトナス○同年八月第三十
 九號布告ヲ以テ醫師タル者醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行
 爲アルトキハ其業ヲ停止若クハ禁止ス○十六年十月第三十

五號布告ヲ以テ醫師免許規則ヲ制定ス是レ現行法ナリ

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第二拾九號布告ハ此規則施行ノ
日ヨリ廢止ス

(別冊)

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試験ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者
トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリ
トス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經
由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開

業免狀ヲ得シユトテ願出ツルトキハ内務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得シユトテ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試験ヲ經サル者ト雖トモ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ
第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登録シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直ニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行

狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○醫術開業試驗規則 第三十四號 布達
今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試

驗規則別冊ノ通相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

醫術開業試驗規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行スヘシ但試驗ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 内務卿ハ醫術開業試驗ヲ舉行スル毎ニ官立及ヒ府縣立醫學校病院ニ從事スル者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ヒ試驗委員ヲ命スヘシ

但齒科醫術開業試驗ニ於テハ齒科醫壹名ヲ試驗委員ニ加フルコトアルヘシ

第四條 内務卿ハ主事者ヲ派遣シ試驗一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分テ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受ルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試験科目

- 第一 物理學
- 第二 化學
- 第三 解剖學
- 第四 生理學

後期試験科目

- 第一 外科學
- 第二 内科學
- 第三 藥物學
- 第四 眼科學
- 第五 產科學
- 第六 臨床實驗
- 第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 第一 齒科解剖及生理
 - 第二 齒科病理及治療
 - 第三 齒科用藥品
 - 第四 齒科用器械

第五 實地試驗

第八條 前期試驗ハ一ケ年半以上後期試験ハ更ニ一ケ年半以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ内務省ニ進達スルモノトス但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行為アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サハルコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直チニ及第證書ヲ與フヘシ但及第證書ニハ試験主事者試験委員連署スヘシ

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ受クル者ハ試験開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓
後期試験手数料 金五圓
齒科試験手数料 金五圓

第十五條 受験中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス

○種痘醫規則 明治九年四月 内務省甲第八號布達

沿革略記

明治四年十一月文部省ヨリ種痘醫ノ免許狀并痘苗分與等取扱方ヲ各府縣ニ達ス○七年十月文部省第廿七號布達ヲ以テ種痘規則中ニ種痘醫免許狀狀渡方等ヲ定ム○九年四月内務省甲第八號布達ヲ以テ前ノ内務省布達種痘規則ヲ廢シ更ニ種痘醫規則ヲ定ム是レ現行法ナリ

明治七年十月文部省第貳拾七號布達種痘規則別冊ノ通改正候條此旨布達候事

(別冊)

種痘醫規則

第一條 種痘術ハ免許狀所持スル者ニ非サレハ之ヲ許サス

但醫術開業免狀所持ノモノ並ニ醫術ヲ以テ官省府縣ニ服事スルモノハ此限ニ非ス

第二條 種痘醫ダランモノハ師家ヨリ其術習熟ノ證書ヲ受ケ履歷書ヲ副ヘテ地方廳ニ願出ヘシ地方廳ニ於テハ檢閱ノ上免許狀ヲ與ヘ毎年兩度三月九月當省ヘ届出ヘシ

但從前種痘免狀ヲ得シ者ハ其履歷並ニ免狀ヲ得タル手續ヲ詳記シ地方廳ニ出シテ更ニ免許狀ヲ受クヘシ

第三條 種痘免許狀ハ之ヲ他人ニ讓ルヲ許サス故ニ本人其業ヲ廢スルカ或ハ死去スルキハ速ニ之ヲ返納スヘシ

第四條 種痘醫タル者ハ其術ノ普及ヲ主トシ且務メテ新鮮有力ノ痘苗ヲ撰フヘシ

第五條 種痘醫ハ接種後第六七日ニ於テ必ス點檢ヲ遂ケ善感ノモノハ第一號式種痘濟ノ證書ヲ與ヘ不善感ノモノハ直チニ再種シ或ハ直チニ再種シ難キモノハ其旨趣ヲ記シテ與ヘ置後日再種ヲ怠ルヘカラサルノ旨ヲ懇諭スヘシ

第六條 種痘醫ハ毎年兩度一月ヨリ六月迄 七月ヨリ十二月迄第一號式ノ表ヲ製シ區戸長若クハ醫務取締ニ出スヘシ

第七條 小兒出生七十日ヨリ滿一年迄ヲ種痘ノ善期トス爾後五年或ハ七年毎ニ必再三接種シテ天然痘ヲ豫防シ且前効ノ存否ヲ檢スヘシ

但近傍ニ天然痘流行スルキハ初種ノ久暫ニ關セス必再種シ且其流行ノ緩急病症ノ輕重等速ニ區戸長若クハ醫務取締ニ届出ツヘシ

(書式略之)

○墓地及埋葬規則 明治十七年十月
第貳拾五號布達

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬

ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ

ナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル

者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證
ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行
フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ク
ヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便
宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○第八類

○棄兒養育米給與方 明治四年六月
布告

從來棄兒教育ノ儀所預リノ分ハ養育米被下貰受人有之分ハ不被下候處自今預リ貰受ニ不拘棄兒當歳ヨリ十五歳迄年々米七斗ツ、被下候間實意養育可致事

○棄兒養育米及生年月日檢定方 明治六年四月
第三百三十八號布告

棄兒養育米ノ儀辛未八月中相達候通十五歳迄年々米七斗宛下渡候處自今滿十二年ヲ限リ被下候條生年月日見定ノ儀ハ其所戸長等立合身體骨格等篤ト檢査シ本年第二十六號布告ニ照シ年齡相定候様可致事

但書 (六年第三百四十號
布告ヲ以テ刪除)

六年第三十六號布告ハ年
齡計算ヲ變年月トナス

○棄兒養育米代金引直シ下渡方七年九月内務大藏兩省乙第五十六號達
 棄兒養育米ノ儀正米無之節ハ貢納石代直段ヲ以テ代金渡可致旨
 壬申年大藏省第四百五號ヲ以テ相達候處自今正米無之節ハ其
 地前月下米平均相場ヲ以テ渡方可取計此旨相達候事
 但本年十月一日ヨリ渡方本條ノ通可相心得事

○行旅死亡人取扱規則明治十五年九月第四十九號布告

沿革略記

明治四年四月脱籍無産ノ輩復籍遞送規則ヲ定ム○同
 年六月行旅病人ノ取扱規則ヲ定ム○同年十二月脱籍
 無産ノ輩郷里ニ復歸シ生計立テ難キ者ノ處置方ヲ示ス○十
 年十二月第九十五號達ヲ以テ犯罪決放ノ者并ニ脱籍無産ノ
 輩其本籍マテノ遞送ヲ廢シ寄留入籍等本人ノ望ニ任ヌ○十
 一年十一月第四十七號達ヲ以テ逃亡失踪者ノ永尋ヲ止ム○十
 五年九月第四十五號布告ヲ以テ行旅死亡人取扱規則ヲ制
 定ス是レ現行法ナリ○同年九月第五十號布告ヲ以テ脱籍無
 産ノ輩復籍遞送規則行旅病人取扱規則等四年以來ノ布告達

等ハ都テ之ヲ廢止ス

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス

行旅死亡人取扱規則

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルトキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓
 地へ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘ
 シ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルキ戸長ハ死亡ノ狀況並ニ埋葬其他
 死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長へ通報スヘシ本籍戸長ハ
 之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルキハ三十日限差出サシメ埋
 葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルキハ其
 本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタ
 ル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場へ揭示シ且兩度
 以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍